

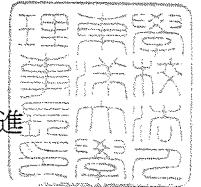
東洋大学総合情報学部設置届出書

平成20年4月28日

文部科学大臣 殿

学校法人 東 洋 大 学

理事長 塚 本 正 進



このたび、東洋大学総合情報学部を設置することについて、学校教育法第4条第2項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウヨウダイガク 学校法人東洋大学							
フリガナ大学の名称	トウヨウダイガク 東洋大学 (Toyo University)							
大学本部の位置	東京都文京区白山五丁目28番20号							
大学の目的	創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	総合情報学部は、東洋大学の教育理念である「合理的なものの見方・考え方」としての哲学の実践、社会におけるリーダーとしての重要な資質である「知徳兼全」、「独立自活の精神」の醸成を基盤として、21世紀社会において必要な情報通信技術 (ICT: Information & Communication Technology) に習熟し、情報の収集・編集分析・表現に関する総合的な能力を持ち、社会を先導できる、「フィロソフィーを持った第一級の情報の使い手」を育成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	総合情報学部 [Faculty of Information Sciences and Arts] 総合情報学科 [Department of Information Sciences and Arts]	年	人	年次	人			
	計	4	260		1,040	学士(情報学)	平成21年4月第1年次	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>平成20年3月、生命科学部応用生物科学科、食環境科学科及びライフデザイン学部生活支援学科改組に伴う収容定員増加について認可申請中(工学部収容定員変更を含む)</p> <p>平成21年度より、工学部「情報工学科」、「コンピューショナル工学科」、「機能ロボティクス学科」を学生募集停止 (平成20年4月報告済み)</p> <p>「工学部」を「理工学部」に名称変更予定 同学部「電子情報工学科」を「電気電子情報工学科」に名称変更予定 同学部「環境建設学科」を「都市環境デザイン学科」に名称変更予定 (平成20年4月届出済み、平成21年4月変更予定)</p> <p>理工学部「生体医工学科」を設置予定 (平成20年4月届出済み、平成21年4月設置予定)</p> <p>生命科学部に「応用生物科学科」及び「食環境科学科」を設置予定 (平成20年4月届出済み、平成21年4月設置予定)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	総合情報学部 総合情報学科	講義	演習	実習	計			
		113科目	28科目	16科目	157科目	124単位		

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合情報学部 総合情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態					専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
自然	科学史	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	環境科学	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	物理学の基礎	1・2・3・4後		2							1							兼1	
	化学の基礎	1・2・3・4後		2														兼1	
	生物学の基礎	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	小計(5科目)	-	0	10	0					0	0	1	0	0				兼4	
人文	哲学	1・2・3・4前・後		2							1							兼3	
	文学	1・2・3・4前・後		2														兼2	
	倫理学	1・2・3・4前・後		2							1							兼1	
	歴史学	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	美術史	1・2・3・4後		2														兼1	
	小計(5科目)	-	0	10	0					0	1	0	0	0				兼8	
社会	経済学の基礎	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	法学の基礎	1・2・3・4前・後		2														兼2	
	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	政治学の基礎	1・2・3・4前・後		2							1							兼1	
	社会学の基礎	1・2・3・4前・後		2							1							兼1	
	マーケティングの基礎	1・2・3・4前		2														兼1	
	小計(6科目)	-	0	12	0					0	1	0	0	0				兼7	
総合	総合A	1・2・3・4前		2														兼1	
	総合B	1・2・3・4前		2						1									
	総合C	1・2・3・4後		2							1								
	総合D	1・2・3・4前		2														兼1	
	総合E	1・2・3・4後		2														兼1	
	総合F	1・2・3・4前		2														兼1	
	全学総合 A	1・2・3・4前		2														兼1	
	全学総合 B	1・2・3・4後		2														兼1	
	全学総合 A	1・2・3・4前		2														兼1	
	全学総合 B	1・2・3・4後		2						1								兼1	
	小計(10科目)	-	0	20	0					2	1	0	0	0				兼6	
ウェルネス	ウェルネスA	1後	1															兼5	
	ウェルネスB	2・3・4前後集	1															兼3	
	健康科学	1・2・3・4前・後	2															兼2	
	小計(3科目)	-	1	3	0					0	0	0	0	0				兼7	
シヨニクン分野	英語と文化	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	ドイツ語と文化	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	フランス語と文化	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	中国語と文化	1・2・3・4前・後		2														兼1	
	小計(4科目)	-	0	8	0					0	0	0	0	0				兼4	
留学支援科目	Special Course in Advanced TOEFL	1・2・3・4後		4														兼2	
	Special Course in Advanced TOEFL	1・2・3・4前		4														兼2	
		小計(2科目)	-	0	8	0					0	0	0	0	0				兼2
	Integrated Japanese	1・2・3・4後		5														兼1	
	Integrated Japanese	1・2・3・4前		5														兼1	
	Japanese Reading and Composition	1・2・3・4後		2														兼1	
	Japanese Reading and Composition	1・2・3・4前		2														兼1	
	Kanji Literacy	1・2・3・4後		1														兼1	
	Kanji Literacy	1・2・3・4前		1														兼1	
	Project Work	1・2・3・4後		1														兼1	
	Project Work	1・2・3・4前		1														兼1	
	Japanese Listening Comprehension	1・2・3・4後		1														兼1	
Japanese Listening Comprehension	1・2・3・4前		1														兼1		
Japanese Culture	1・2・3・4後		1														兼1		
Japanese Culture	1・2・3・4前		1														兼1		
	小計(12科目)	-	0	22	0					0	0	0	0	0				兼4	
人間形成	キャリア形成	1・2・3・4後		2						1									
	学外実習	3・4集		2								1							
	学外実習	3・4集		2								1							
		小計(3科目)	-	0	6	0					1	0	1	0	0				0

(総合情報学部 総合情報学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
必修	総合情報学概論	1前	2					1						
	入門プログラミング	1後	2					2						
	総合情報プラクティス	1前	2					5	1	1				
	総合情報プラクティス	1後	2					4	2	1				
	Integrated Practical English	1前	1					1	1					兼8
	Integrated Practical English	1後	1					1	1					兼8
	English for TOEIC	1前	1					1	1					兼8
	English Presentation	1後	1					1	1					兼8
	総合情報プラクティス	2前	2					3	1					
	総合情報プラクティス	2後	2					1	1	2				
	English for TOEIC	2前	1					1	1					兼8
	English Presentation	2後	1					1	1					兼8
	総合情報プラクティス	3前	2					3	3	2				
	総合情報プラクティス	3後	2					6	3					
	総合情報プラクティス	4前	2					19	10	5				
	総合情報プラクティス	4後	2					19	10	5				
小計(16科目)		-	26	0	0	-		19	10	5	0	0	兼8	-
専門科目	Technical Reading	3・4前		1				1	1					
	Technical Writing	3・4後		1				1	1					
	English for Specific Purposes (ESP)	3・4前		1				1	1					
	English for Specific Purposes (ESP)	3・4後		1				1	1					
	Technical Communication(Academic Course)	3・4前		1				1	1					
	Technical Communication(Business Course)	3・4後		1				1	1					
	Remedial English	3・4前		1				1	1					
	Remedial English	3・4後		1				1	1					
	総合情報学ショーケース	1後		2				1						
	総合情報学の基礎A(数学)	1前		2				2		1				
	総合情報学の基礎B(科学)	1後		2					1	1				
	総合情報学の基礎C(心理学と情報)	1後		2					2					
	確率統計	1後		2				2						
	情報数学	1後		2				2						
	基礎数学A	1前		2						1				
	基礎数学B	1後		2				1						
	ネットワーク通信入門	1後		2						1				
	応用コミュニケーション	1後		2							1			
	情報倫理	1前		2				3						
	地球環境学の基礎	1後		2				1						
	自然生態学の基礎	1前		2						1				
	卒業研究	4前		6				17	8	5				
	卒業研究	4後		6				17	8	5				
	卒業制作	4前		6				1						
	卒業制作	4後		6				1						
	プログラミング技法	2・3・4前		2				2						
	プログラミング技法	2・3・4後		2				2						
	アルゴリズムの基礎	2・3・4前		2				1						
	オートマトン	2・3・4後		2				1						
	コンピュータアーキテクチャ	2・3・4前		2						1				
	オペレーティングシステム	2・3・4前		2						1				
	ネットワークコンピューティング	2・3・4後		2							1			
	情報セキュリティ	2・3・4後		2						1				
	プログラミング言語論	2・3・4後		2							1			
	信号処理	2・3・4前		2				1						
	人工知能	2・3・4後		2				1						
	パターン認識	2・3・4前		2				1						
	データベース	2・3・4前		2				1						
	ソフトウェア工学	2・3・4前		2				1						
	ソフトウェア工学	2・3・4後		2				1						
	情報システム管理	2・3・4後		2				1						
	プロジェクト管理	2・3・4後		2				1						
CGの理論と実践	2・3・4後		2						1					
画像処理の理論と実践	2・3・4前		2						1					

(総合情報学部 総合情報学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置					備 考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 科目 選 択	芸術論	2・3・4前		2					1							
	感性学	2・3・4後		2					1							
	文化論	2・3・4前		2						1						
	コンテンツ作成技法	2・3・4前		2					1							
	映像学	2・3・4後		2					1							
	サイエンスとアート	2・3・4後		2						1						
	ファンタジー論	2・3・4後		2							1					
	コンテンツ作成のためのCG	2・3・4後		2					1							
	ゲームの歴史	2・3・4前		2							1					
	コンテンツ作成のための画像処理	2・3・4前		2						1						
	ヒューマンインタフェース	2・3・4後		2					1	1						
	メディア表現論	2・3・4前		2					1							
	アニメーション文化論	2・3・4前		2					1							
	ネットワーク社会論	2・3・4前		2					1							
	情報メディア論	2・3・4後		2					1							
	マルチメディアシミュレーション	2・3・4前		2							1					
	デジタルデザイン	2・3・4後		2					1							
	技術文化史	2・3・4後		2							1					
	エコデザイン論	2・3・4前		2							1					
	環境コミュニケーション論	2・3・4後		2							1					
	都市エネルギー情報論	2・3・4後		2							1					
	環境ビジネス論	2・3・4前		2					1							
	環境マネジメント論	2・3・4後		2					1							
	環境イノベーション論	2・3・4前		2					1							
	サービスサイエンス	2・3・4後		2					1							
	都市情報論	2・3・4前		2					1							
	ビジネスアーキテクチャ	2・3・4後		2					1							
	環境会計学	2・3・4前		2					1							
	企業マネジメント情報論	2・3・4前		2					1							
	社会マーケティング論	2・3・4前		2						1						
	ビジネス情報論	2・3・4後		2					1							
	地理情報論	2・3・4前		2							1					
	経営環境モニタリング	2・3・4後		2							1					
エコロジー情報論	2・3・4後		2							1						
入門心理統計学	2・3・4前		2								1					
応用心理統計学	2・3・4後		2								1					
異文化間コミュニケーション	2・3・4後		2					1								
臨床心理学	2・3・4前		2							1						
社会調査法	2・3・4前		2							1	1					
人間環境デザイン心理学	2・3・4後		2							1						
産業・組織心理学	2・3・4後		2							1						
産業カウンセリング概論	2・3・4前		2							1						
実験計画法	2・3・4前		2								1					
実験心理学	2・3・4後		2							1						
認知心理学	2・3・4前		2					1	1							
スポーツ心理学	2・3・4後		2												兼1	
健康心理学	2・3・4前		2												兼1	
小計(91科目)		-	0	190	0	-	-	-	19	10	5	0	0	兼2	-	
合計(157科目)			-	27	281	0	-	-	19	10	5	0	0	兼49	-	
学位又は称号	学士(情報学)	学位又は学科の分野			工学関係 社会学・社会福祉学関係											
卒業要件及び履修方法					授業期間等											
一般教養科目から選択科目を16単位以上を修得する。専門科目については、必修科目26単位を必要とし、選択科目においては、共通の各科目、さらに情報科学関係、メディア文化関係、環境情報関係、心理情報関係の4つの「関係科目」の中から、学生の興味や希望進路に合った「関係科目」を中心に、選択科目と合計で92単位以上を修得する。全体では124単位以上を修得することを卒業要件とする。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))					1学年の学期区分				2学期							
					1学期の授業期間				15週							
					1時限の授業時間				90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目 自然	科学史	ギリシャ時代から近代に至る科学の発展過程について講義する。更に、産業革命期における熱学の形成過程および20世紀における科学技術の発展について歴史的に講義する。これにより、哲学者や科学者が自然をどう見てきたかを概観し、科学技術のあり方について、その一端を考察する。	
一般教養科目 自然	環境科学	現代における様々な環境問題、例えば食品汚染、大気汚染、水質汚染、土壌汚染から帯域中の炭酸ガスの増加による温暖化や酸性雨による森林破壊などの地球規模の問題について具体的な事例をあげながら、その原因・解決法に関する諸問題について講義する。その講義により、身の回りの環境問題に目を向けさせると共に環境問題への関わりについて考えさせる機会を提供する。	
一般教養科目 自然	物理学の基礎	高校で物理学を修得していない学生、履修はしていたが、十分に理解できなかった学生を対象に力学を中心として基礎的な物理を理解することを目的とする。講義は微積分を使わずに、速さと速度の違い、加速度、等速運動、等加速度運動、重力加速度など1次元運動を履修した後、ニュートンの運動の法則、放物運動、等速円運動、および単振動を経て仕事とエネルギー、運動量保存則など力学の基礎をわかりやすく講義する。	
一般教養科目 自然	化学の基礎	物質の性質を利用してそれを使ったり、化学変化やそれに関連する現象を理解しようとしたりする上で、きわめて重要な化学の基本的な原理や概念について、その基礎的なことを身につけてもらうことを目的として講義を行う。原子の構造や化学結合について量子論的見方、考え方を理解すること、原子の構造とその性質、化学結合と分子の構造と関連について理解するとともに、原子や分子の集合体としての性質に関わる基礎的事項について理解することを目標とする。	
一般教養科目 自然	生物学の基礎	高校で生物学を学んでいなくても生物の基礎が理解できるよう、細胞、遺伝、生物エネルギー、代謝など生命の基本となる事項から、増殖、個体発生、分化、環境適応、進化、死など、生命を特徴づける複雑な機能の概要までを系統的に解説する。生物の多様性と生命の普遍性、生物の世界を進化的視点で捉え、生命体を支える機構についての基礎的な知識を体系的に理解し、説明できることを目指す。様々な生物現象の解説を通して、生物現象への興味と理解を深め、生物学的なもの見方と考え方を習得する。	
一般教養科目 人文	哲学	広く社会人として様々な問題を物事の根本に立ち戻って考えることの意義を述べる。内容は、特に科学の基本概念について解説する。帰納、演繹、推論、アナロジー、検証、反証、仮説などの基本概念を修得し、運動、物質、生命等の現代のトピックを取り上げ、問題の焦点が何であるかを解説する。また、道具の作成、測定、測定理論等について検討する。	
一般教養科目 人文	文学	本講義では、主にイギリス(アイルランドを含む)の小説を紹介し、そこに描かれている人間像や文化は、我々どどのような類似・差異があるのか、時代を追ってその特徴について考えていく。また、伝説や神話にも触れ、映画化されている作品の一部を見ることにより、現代における文学のもつ意味について文学作品を通して考える。	
一般教養科目 人文	倫理学	日本の倫理学は、キリスト教文化に基づく倫理思想である西洋の倫理学の受容と切り離せないが、本講義では日本の倫理思想として、儒教・仏教を代表として考察する。もともと倫理思想は宗教と密接な関係を有していることから、キリスト教と儒教・仏教という比較思想的観点が重要であり、その視点から、近代日本の西洋思想受容のあり方について解説する。	

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	人文	歴史学	歴史学の研究業績は、その研究者がおかれた時代の要請により影響されており、その時代の問題意識の現れである。国際化の時代といわれる現代において日本が直面している問題は、世界の中に日本をいかに位置づけるかという点であることを踏まえ、世界史の中で日本史をテーマに設定し、解説していく。
一般教養科目	人文	美術史	美術は芸術分野のうち、主要な造形領域であり、絵画、彫刻、建築、工芸等の総称である。時間、空間や民族を越え、美しきものは常に多くの人々の関心を得てきたと云えよう。本講義では、多様な美術領域を紹介し、美しきものがどのような理念や感性によって、それらが生み出されて来たかに触れたい。できうるなら、学生自身の美意識を表現してもらえるような方法で講義を進める。
一般教養科目	社会	経済学の基礎	経済学における数理的方法について講義を行う。経済学が社会科学としての「科学性」を有するその根底には、人間の経済活動における理にかなったある種の「法則性」の存在が考えられ、この法則性は数学的手法によってよりの確に把握される。本講義では、経済分析に使用される数学的手法（静学的最適化理論、動学的最適化理論、ダイナミカル・システムなど）の修得を目標とし、技術者として必要な基礎知識を養う。
一般教養科目	社会	法学の基礎	本講義では、教養として必要な法律に関する基礎知識の習得を目的とする。法的なものの考え方に触れることにより、法に対する関心を高めることを目標とする。法の基礎的な知識を学ぶことにより、社会の諸価値を理解するのみならず、表現の正確さ、書かれた言葉の正確な解釈力を養う。また、具体的な事例を通じて理解を促す。
一般教養科目	社会	日本国憲法	本講義は、法律が基本的に国家権力を制限し、人権を保障するところに核心があるとの理解の下で、憲法についての基礎知識を体系的に整理する、また、憲法関係の判例等を解説し、身の回りの政治的・社会的・経済的諸問題への意識を高めると共に、考え方の多様性を知り、法的なものの考えに触れることを目的としている。
一般教養科目	社会	政治学の基礎	現代社会生活は、すべて政治決定すなわち政策の影響を受ける。デモクラシーという政治システムにおける政策は、民意を反映していなければその本質的意義を失う。本講義では、市民として政策に対する判断力を養うために、諸政策領域を取り上げ、政策の知識の集積と分析を行う。
一般教養科目	社会	社会学の基礎	今日の社会環境は、メディアを媒体にした人間どうしの関係性が極めて大きな領域を占めている。本講義では、現代人が生きているメディア社会の特質を社会的に解明するために、電子メディアの影響による「人間の拡張と社会変容」という視点で、必要に応じてビデオやスライドなどの映像資料を活用して講義していく。
一般教養科目	社会	マーケティングの基礎	本講義では、マーケティングの基礎理論について、マーケティング戦略（製品戦略、価値戦略、チャンネル戦略、コミュニケーション戦略など）について、近年のマーケティングの新展開（サービス業のマーケティング、リレーションシップ・マーケティングなど）について、具体的な事例をあげながら講義する。これにより、技術者として必要な市場の動向を予測する基礎的な手法を学ぶ。

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	総合教養 総合 A	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合A」では、高度情報社会のあり方をテーマとする計画である。	
一般教養科目	総合教養 総合 B	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合B」では、コミュニケーションをテーマとする計画である。	
一般教養科目	総合教養 総合 C	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合C」では、社会とコンピュータをテーマとする計画である。	
一般教養科目	総合教養 総合 D	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合D」では、メディア文化の関連領域をテーマとする計画である。	
一般教養科目	総合教養 総合 E	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合E」では、社会の環境やシステムをテーマとする計画である。	
一般教養科目	総合教養 総合 F	総合科目は、一般教養科目の「自然」「人文」「社会」の領域区分にない分野、各分野にまたがる分野におけるテーマをタイムリーに取り扱うことをねらいとしている、特に総合情報学部の専門科目全体や4つの系、さらには卒業後につながる領域のテーマを重視している。また、学部教員はもちろん、企業人や大学のOBやOGにゲスト参加をお願いするほか、視聴覚機器等の利活用や学生に考えさせる形式など、教授方法についても工夫しながら、現代社会の諸問題について学生が敏感になるよう配慮した授業とする。 「総合F」では、情報社会における人間をテーマとする計画である。	

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	総合教養 全学総合 A	授業のテーマは、学問分野の違いや従来の科目区分にとらわれることなく、授業担当者により設定される。今日的・実践的なテーマについて視聴覚教材を活用しながら授業を展開している。授業内容は、細分化された専門分野を取り扱うのではなく、広範な分野にわたる。そのため、複数のゲストとともに授業が進行するものがほとんどである。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
一般教養科目	総合教養 全学総合 B	授業のテーマは、学問分野の違いや従来の科目区分にとらわれることなく、授業担当者により設定される。今日的・実践的なテーマについて視聴覚教材を活用しながら授業を展開している。授業内容は、細分化された専門分野を取り扱うのではなく、広範な分野にわたる。そのため、複数のゲストとともに授業が進行するものがほとんどである。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
一般教養科目	総合教養 全学総合 A	授業のテーマは、学問分野の違いや従来の科目区分にとらわれることなく、授業担当者により設定される。今日的・実践的なテーマについて視聴覚教材を活用しながら授業を展開している。授業内容は、細分化された専門分野を取り扱うのではなく、広範な分野にわたる。そのため、複数のゲストとともに授業が進行するものがほとんどである。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
一般教養科目	総合教養 全学総合 B	授業のテーマは、学問分野の違いや従来の科目区分にとらわれることなく、授業担当者により設定される。今日的・実践的なテーマについて視聴覚教材を活用しながら授業を展開している。授業内容は、細分化された専門分野を取り扱うのではなく、広範な分野にわたる。そのため、複数のゲストとともに授業が進行するものがほとんどである。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
一般教養科目	ウェルネス ウェルネスA	適切な身体運動の学習によって、日常生活を健康的に過ごせるような身体を育成する。高校で、すでに各種のスポーツを習得してきているので、個人の興味の追及によりスポーツ各種(バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、サッカー、卓球)を自主選択し、基本技術の再確認をしながら試合を行う。試合をすることによって、種目のルールの理解、発展、運営等を習得する。	
一般教養科目	ウェルネス ウェルネスB	適切な身体運動の学習によって、日常生活を健康的に過ごせるような身体を育成する。「ウェルネスB」では、学内授業と学外(集中)授業がある。学内授業は「ウェルネスA」で実施できなかった種目を選択する。学外(集中)授業では短期集中で技能修得及び自然環境の中で身を置き、身体活動を通じて運動効果の必要性を身につける。	
一般教養科目	ウェルネス 健康科学	変化の激しい現代社会に対応して、心身ともに健康であることは、人間生活の基盤である。健康科学は身体活動を通し、健康保持・増進また生涯体育を行うための基本的な知識を養い、あわせて人間形成の重要な場として必要な諸能力を身につける。最近、社会的に益々関心が高まっている健康の諸問題について様々な視点より考察する。	

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	文化間コミュニケーション分野 英語と文化	コミュニケーションを目的とする授業で、英語のスピーキングとリスニングの上達を目指す。異文化間のテーマを扱い、様々なトピックについて学習者間で検証し、国際的な感覚を身につけることも目的の一つとする。講義はテキストを用いるが、関連する最新のトピックを取り上げながら授業を進める。	
一般教養科目	文化間コミュニケーション分野 ドイツ語と文化	ドイツ語の正しい発音・文法の基礎を学び、ドイツ語に親しめるように、ごくやさしい文章を読むと共に、ドイツを旅行するシチュエーションで様々な初歩の会話練習を行う。講義では、必要に応じて視聴覚教材を使用したり、インターネットを介してドイツの生の情報に触れながら課題を解いてもらう。	
一般教養科目	文化間コミュニケーション分野 フランス語と文化	フランス語の正しい発音・文法の基礎を学び、フランス語に親しめるように、ごくやさしい文章を読むと共に、フランスを旅行するシチュエーションで様々な初歩の会話練習を行う。講義では、必要に応じて視聴覚教材を使用したり、インターネットを介してフランスの生の情報に触れながら課題を解いてもらう。	
一般教養科目	文化間コミュニケーション分野 中国語と文化	中国語の正しい発音・文法の基礎を学び、中国語に親しめるように、ごくやさしい文章を読むと共に、中国を旅行するシチュエーションで様々な初歩の会話練習を行う。講義では、必要に応じて視聴覚教材を使用したり、インターネットを介してフランスの生の情報に触れながら課題を解いてもらう。	
一般教養科目	英語特別教育科目 Special Course in Advanced TOFEL	この科目では、「使える英語力」を身につけるために、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つの技能をバランスよく効果的に学び、受講者全員がTOEFL (CBT)で173点以上を取れるようになることを目指す。結果として英語圏の大学へ留学できる資格が得られるとともに、卒業後に英語力を生かした仕事への就業の可能性を高める。	
一般教養科目	英語特別教育科目 Special Course in Advanced TOFEL	この科目では、“Special Course in Advanced TOEFL ”で学習した「使える英語力」をさらに磨くことを目指す。ナチュラルな英語を聞く力を養う、他者の意見を聞き、自分の考えを英語で発表する力を養う、留学に必要な英語の総合力をさらに伸ばすことを目標とする。さらには各受講者が、与えられた課題をこなすのではなく、自ら課題を設定し、それに取り組んでいく態度も併せて養うことを目標とする。	
一般教養科目	留学支援科目 Integrated Japanese	[日本語総合演習] 本学で学ぶ交換留学生が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「日本語総合演習」として聞く・話す・読む・書く、の四つの技能を用いた活動を通じて新しい表現を理解すると同時に、それらを十分に使いこなしてコミュニケーションスキルを高めることを目指す。	留学生が在籍する年度のみ開講
一般教養科目	留学支援科目 Integrated Japanese	[日本語総合演習] この科目は「Integrated Japanese 」を踏まえ、聞く・話す・読む・書く、の四つの技能を用いた活動を通じて新しい表現を理解すると同時に、それらを十分に使いこなしてコミュニケーションスキルをさらに高めることを目指す。	留学生が在籍する年度のみ開講

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目 留学支援科目	Japanese Reading and Composition	[日本語読解作文] 本学で学ぶ交換留学生在が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「日本語読解作文」として、本格的に読み、書くことを通じて、日本語の表現や論理構造を学ぶ。既習の表現を用いた活動のほか、発展的な読み書きにも挑戦する。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目	Japanese Reading and Composition	[日本語読解作文] この科目は「Japanese Reading and Composition」を踏まえ、本格的に読み、書くことを通じて、日本語の表現や論理構造を学ぶ。既習の表現を用いた活動のほか、発展的な読み書きにもさらに挑戦する。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Kanji Literacy	[漢字演習] 本学で学ぶ交換留学生在が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「漢字演習」として、日常生活から大学での研究活動に必要なとされる日本語の運用能力を伸ばすことを目的とする。 留学生の日本語学習の障害の一つとしてとりあげられる「漢字」について、文字の生い立ちなど興味が持てるような授業を設ける。個人学習が続かずくじけてしまいそうになる漢字学習を楽しく効果的に行うための支援をする。「Kanji Literacy」では基本的な構造・意味・使用方法などを学習する。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Kanji Literacy	[漢字演習] この科目は「Kanji Literacy」で学んだ基本的な内容を踏まえ、具体的な使用方法などの運用を学習を進め、読み書きができるよう展開する。日本語を理解するうえで欠かせない漢字を、集中的に学ぶ。他の科目で既習の漢字、未習の漢字、それらを用いた漢字語彙を、系統立てて学習する。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Project Work	[日本語プロジェクトワーク] 本学で学ぶ交換留学生在が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「日本語プロジェクトワーク」として、学生が各自の興味関心に基づいて情報収集、発信、調査研究と発表を行う。必要に応じて新しい表現も学ぶが、基本的には既習表現の範囲で創造的な活動を行う。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Project Work	[日本語プロジェクトワーク] この科目は「Project Work」で学習した内容を踏まえ、学生が各自の興味関心に基づいてさらなる情報収集、発信、調査研究と発表を行う。必要に応じて新しい表現も学ぶが、基本的には既習表現の範囲で創造的な活動を行う。	留学生在が在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Japanese Listening Comprehension	[日本語聴解] 本学で学ぶ交換留学生在が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「日本語聴解」として、集中的に聴いて聴解力を高めるとともに、日常のさまざまな場面で用いられる口頭表現を学ぶ。映画やドラマを題材とした聴き取りにも挑戦する。	留学生在が在籍する年度のみ開講

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目 留学支援科目	Japanese Listening Comprehension	[日本語聴解] この科目は「Japanese Listening Comprehension」で学習した内容を踏まえ、さらに集中的に聴いて聴解力を高めるとともに、日常のさまざまな場面で用いられる口頭表現を学ぶ。映画やドラマを題材とした聴き取りにも挑戦する。	留学生在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Japanese Culture	[日本文化演習] 本学で学ぶ交換留学生在籍が、日本語を用いて充実した学生生活および研究活動を送るための支援科目。授業は基本的に3段階レベル別(日常生活の場面对応、時事・社会的な問題への情報収集、自分の専門分野を含む学術的な情報収集、発信、ディスカッションのレベル)に自分の日本語学習の到達程度に合った授業を受ける。 この科目は「日本文化演習」として、日本の伝統文化や芸能にふれ、学部学生および地域住民と交流する。伝統文化や芸能について体験実習を行うほか、キャンパス周辺住民宅でホームステイを実施する。	留学生在籍する年度のみ開講
一般教養科目 留学支援科目	Japanese Culture	[日本文化演習] この科目は、「Japanese Culture」と日本語関連の科目で学んだ体験・学習内容を踏まえ、日本の伝統文化や芸能への理解を深めるため、学部学生および地域住民と交流を行う。伝統文化や芸能について体験実習を行うほか、キャンパス周辺住民宅でホームステイを実施し日本語と文化を総合的に身につける。	留学生在籍する年度のみ開講
一般教養科目 人間形成分野	キャリア形成	ここでいうキャリアとは、経歴や経験、これに裏打ちされた職務能力としてとらえる。社会に出る一歩手前の時期には、自らの興味や価値観、能力を基盤として自己実現を図ることを考えなければならない。さらに就業した後も、技術革新の急激な進展やニーズの変化により、個人蓄積してきた職業能力が通用しないこともありうる。総合情報学科は、多様な方面の職業人としての能力を展開する場であるだけに、将来の目標設定やその達成に向けてのデザインを多角的に描くことを促し、自身の就業観を磨き、形成してゆく機会とする。	
一般教養科目 人間形成分野	学外実習	情報通信技術を活用する基本的なスキルを身につけ、総合情報学の深い習得に生かすためには、学外の企業や研究所において、情報の価値を高める実践活動の一端を習得することが有効である。これが「学外実習」のねらいである。企業等の活動現場では、さまざまな年令や職務の人々と仕事を共にして、大学内の講義や演習では実体験がむずかしい能力を磨くことになる。現場における専門知識の習得や生の技術的また対人的な体験をすることによって、総合情報学の応用にかかわる実務的な知識・技術を体得する。これによって経験を積み、能動的な姿勢が育つことも期待している。	
一般教養科目 人間形成分野	学外実習	情報通信技術を活用する基本的なスキルを身につけ、総合情報学の深い習得に生かすためには、学外の企業や研究所において、情報の価値を高める実践活動の一端を習得することが有効である。これが「学外実習」と同様に「学外実習」のねらいである。企業等の活動現場では、さまざまな年令や職務の人々と仕事を共にして、大学内の講義や演習では実体験がむずかしい能力を磨くことになる。現場における専門知識の習得や生の技術的また対人的な体験をすることによって、総合情報学の応用にかかわる実務的な知識・技術を体得する。これによって経験を積み、能動的な姿勢が育つことも期待している。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	必修	総合情報学概論	情報学全般における様々な研究紹介を行い、教員の行っている研究を理解させると同時に研究に対する興味を持たせることを目的とする。講義は、本学科で展開される情報科学分野、メディア文化分野、環境情報分野、心理情報分野の最先端の研究テーマの進捗を紹介する。これにより、初年次の学生の学習意欲を刺激し、将来の就職に対する概略のイメージを持たせる。いわば、学生に対する導入教育としての位置づけとなり、今後の各専門分野履修のための準備講義としても位置付けている。	
専門科目	必修	入門プログラミング	プログラミングの経験のない者でも、プログラムを作るために必要な知識と考え方が身に付くように基礎からすべて余すところなく説明していく。内容は、プログラムとは何か、プログラムを書くとは(書くには)、プログラムを保存するとは(保存するには)、プログラムを修正するとは(修正するには)、プログラムを実行するとは(実行するには)、良いプログラムの書き方、プログラムを読み解くなどである。この他、世の中のプログラムの俯瞰、コンピュータとプログラム、プログラムの可能性と限界などについても簡単に説明する。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報学概論」において概括的に眺めた情報学の課題や成果について、演習形式の授業を行い、情報学の素養を身につける。当学科で展開される四つの分野を広く理解し、自身の適性や指向、意欲を見定める。「総合情報プラクティス」と共に、2年次より展開される各分野の専門科目への橋渡しとなるため、より深い理解を得られるものと期待する。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報学概論」において概括的に眺めた情報学の課題や成果について、演習形式の授業を行い、情報学の素養を身につける。当学科で展開される四つの分野を広く理解し、自身の適性や指向、意欲を見定める。「総合情報プラクティス」の経験を踏まえ、2年次より展開される各分野の専門科目への橋渡しとなるため、より深い理解を得られるものと期待する。	
専門科目	必修	Integrated Practical English	総合情報学において重要なコミュニケーションのためのツールとして、英語を専門的に学ぶ。本科目では、入学時に実施する実力テストによりコース分けを行い、基本文法の徹底指導、基礎から応用に至るまでの文法を幅広く指導、実用場面に即した応用力を語彙および文法面からの指導など、それぞれの学生に応じた教育を行う。	
専門科目	必修	Integrated Practical English	「Integrated Practical English」に続く形で、文法の基礎力を確実に習得させる。 文法の応用力を確実に習得させる。 実用英語のポイントを体系的に理解させる。 これにより、reading、writing、listening、speakingの4技能に実用面に対応できる基本的な表現と構文力を体系的に習得させる。	
専門科目	必修	English for TOEIC	TOEICのListening Partのscore向上を目指し、listening practiceを中心に音声面を徹底指導する。特に高校教育までに十分な時間を割いて行われていない実際の場面に対応したnatural speedでのlisteningの訓練を中心に、日本語にはない英語の音的な特徴を習得させる。さらに、これに即する形で、英語を使ってプレゼンテーションを行うための基礎力となるspeakingの下地を作る。	
専門科目	必修	English Presentation	「English for TOEIC」で習得したlisteningのノウハウをベースに、英語でプレゼンテーションを行う基本を伝える。英語で効果的にプレゼンテーションを行う上でのポイントとなる、自然なイントネーション、アクセント、ストレスといった実際の場面での意味の伝達に不可欠な音的特徴の徹底的な訓練を中心に、オーディエンスを意識した具体的なプレゼンテーションの習得を目指す。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報プラクティス ・ 」において広く四つの分野を概観してきたが、2年次の当科目では、更にその理解度を深めるべく、各学生が二つの分野に絞り込み学習を行う。テーマは各分野により異なるメニューを用意するが、最近のトピックスや社会の動向を取り入れた演習を行い、将来を見据えた専門分野の適正を図り、理解を深める。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報プラクティス ・ 」において広く四つの分野を概観してきたが、2年次の当科目では、更にその理解度を深めるべく、各学生が二つの分野に絞り込み学習を行う。テーマは各分野により異なるメニューを用意するが、最近のトピックスや社会の動向を取り入れた演習を行い、将来を見据えた専門分野の適正を図り、理解を深める。	
専門科目	必修	English for TOEIC	TOEICのReading Partのscore向上を目指し、reading practiceを中心に読解面を徹底指導する。特に高校までの英語教育で十分な時間を割かれていないrapid readingに焦点を当て、その基本となるscanningとskimmingの訓練を中心に実用面で通用する講読力を習得させる。さらに、プレゼンテーションのスク립トの作成に効果的につながるようなwritingの下地を作る。	
専門科目	必修	English Presentation	「English Presentation 」に続く形で、テーマを決め、それに沿って内容を展開してスク립トを作成するというプロセスと、それをスライドを使用して口頭で発表するというプロセスの両面を具体的に指導する。具体的には、正確な情報を基に明示的に作成したスク립トを発表用のスライドに簡潔にまとめるwritingを中心にした練習とそれをオーディエンスの前で効果的に伝えるspeakingを中心にした練習の両方を行っていく。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報プラクティス ・ 」において絞り込んだ分野をさらに深化し、一つの分野に絞った専門的に展開する演習と位置づける。自身が4年次の「卒業研究」・「卒業制作」に進むための基本的な知識を習得し、より専門的な学習を行えるよう開講する。自身の希望進路を見据え、各分野より提供されたテーマを選び、演習を通じてより専門的な学習を行う。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	「総合情報プラクティス ・ 」において絞り込んだ分野をさらに深化し、一つの分野に絞った専門的に展開する演習と位置づける。自身が4年次の「卒業研究」・「卒業制作」に進むための基本的な知識を習得し、より専門的な学習を行えるよう開講する。自身の希望進路を見据え、各分野より提供されたテーマを選び、演習を通じてより専門的な学習を行う。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	総合情報学の専門系における卒業研究のテーマに関連した内容について、調査、発表、討論などを行う輪講形式や、プロジェクト形式など各教員の特色ある教育スタイルに任せて講義・実習などを行う。各自が与えられたテーマについて自発的に取り組み、指導教員の指導のもとに、問題の把握・理解、解決策の提案、実施などを行う。	
専門科目	必修	総合情報 プラクティス	総合情報学の専門系における卒業研究のテーマに関連した内容について、調査、発表、討論などを行う輪講形式や、プロジェクト形式など各教員の特色ある教育スタイルに任せて講義・実習などを行う。各自が与えられたテーマについて自発的に取り組み、指導教員の指導のもとに、問題の把握・理解、解決策の提案、実施などを行う。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	Technical Reading	Web上の情報を短時間で正確に把握する速読力の習得に焦点を当て、実用場面に対応するreadingを指導する。専門分野で論文を作成する際、あるいは、実務で現場に対応した資料(報告書・企画書・提案書など)を作成する際に必要となる情報の効果的な収集の要となるtechnical readingの実用力を、Web上のさまざまな分野の英文資料を中心に演習方式で習得させていく。	
専門科目	選択	Technical Writing	E-Mailでのやり取りを念頭に置き、「Technical Reading」で得たノウハウを効果的に活用しながら、実用場面に対応するwritingを指導する。具体的には、アカデミックな場面でもビジネスの場面でも現在のwritingの中心となっているE-Mailの作成に焦点を当て、実用ですぐに対応できるtechnical writingの実用力を、演習を中心に習得させていく。	
専門科目	選択	English for Specific Purposes	専門分野の内容を、Reading & Writingの両面から理解・表現できるように指導する。ESPとは目的に即応した英語力のことであるが、ここではtechnical readingとtechnical writingの応用力を習得することに焦点を合わせ、実用場面で実際に使用された資料をできる限り利用して、現状に即した実用力を体得させるように授業を展開していく。	
専門科目	選択	English for Specific Purposes	専門分野の内容を、Listening & Speakingの両面から理解・表現できるように指導する。ESPとは目的に即した英語力のことであるが、ここではtechnical listeningとtechnical speakingの応用力を習得することに焦点を合わせ、アカデミックな場面やビジネスの場面で実際に行われたスピーチやプレゼンテーションをできる限り利用して、現状に即した実用力を体得させるような授業を展開していく。	
専門科目	選択	Technical Communication (Academic Course)	大学院に進む学生を対象に、専門分野の論文の読み方、書き方、そして、学会での発表、質疑応答などのポイントを指導する。英語論文の読み方に関しては、「Technical Reading」で習得した力をベースに、scanningとskimmingの技法を最大限活かしてrapid readingを実現していく。そして英語論文の書き方に関しては、「Technical Writing」で習得した客観的で明確なtechnical writingの手法を実現していく。	
専門科目	選択	Technical Communication (Business Course)	履歴書の作成、就職面接のやり取り、電話での対応、ビジネスレターの書き方などビジネス一般で必要とされるコミュニケーション力を習得させる。基本的な口頭でのビジネスコミュニケーションのトレーニングでは、主にペアワークなどのダイナミックな授業展開を行う。また、「外資系企業への就職」などの架空場面を想定して、そのプロセスに必要な具体的なコミュニケーションのポイントを演習で指導していく。	
専門科目	選択	Remedial English	上級学年になった時点で基礎力不足を実感している学生を対象に、「Integrated Practical English」の内容を総括的に復習する。特に、語彙力と構文力の基本を見直し、それが即戦力につながるように指導していく。具体的には、TOEICで過去に出題された問題など、実際の実用英語の試験問題を利用して、「解法とテクニック」方式で効率的に授業を展開していく。	
専門科目	選択	Remedial English	上級学年になった時点で基礎力不足を実感している学生を対象に、「Integrated Practical English」の内容を総括的に復習する。具体的には、「Remedial English」を引き継ぐ形で、さまざまな実用英語試験の過去に出題された問題を多面的に扱い、実用的な「理解」と「表現」に対応できる基本力を確実に指導していく。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	総合情報学 ショーケース	総合情報学部における多様な分野を、それぞれの専門の教員をゲストに迎えて紹介し、学生とのディスカッションによって理解を深めていく。授業は毎回、学部内の教員をゲストに迎え、学生とのディスカッションを先導する。この授業は、総合情報学部における文理融合的、また分野横断的な研究学習の理念を具現化して、学習の早い段階で、学生に新たな活動領域の可能性を体験的に獲得させる目標を持つ。	
専門科目	選択	総合情報学の基礎 A (数学)	総合情報学を学ぶにあたって必要となる数学について講義する。総合情報学には複数の系があるが、いずれの系でも計算機の動作やソフトウェア、プログラミングなどを理解するに当たって要求される数学の知識があり、これを1年次に学んでおくことは極めて重要である。具体的には、式の概念から始めて、プログラムやソフトウェアとも直接関連する関数、情報理論に不可欠なグラフ、計算科学のみならず、経営工学や心理統計などに広く利用される微分・積分の基礎を学ぶ。	
専門科目	選択	総合情報学の基礎 B (科学)	総合情報学を学ぶにあたって必要となる科学について講義する。高校で理科のどの教科を学んだかに関係なく理解できるよう配慮する。具体的には、力学から物体の運動とそれに伴う運動量と力学的エネルギーの概念、電磁気学から静電場と電位、電流と抵抗、直流と交流、電磁誘導、波の原理と性質、実在する各種の波、物理化学分野から原子・分子レベルでの物質の考え方、化学結合と化学反応、マクロな物質、また、タンパク質やDNAなど生体と繋がる分野なども網羅し、科学全般についての概念的な知識を修得することを目指す。	
専門科目	選択	総合情報学の基礎 C (心理学と情報)	心理学研究には、誰にでもあてはまる一般的な人間性に関する理論を構築しようとする方向と、個人差や個性を追求する方向の2つがある。どちらの方向であっても、情報を科学的に収集・分析し、根拠のない思惑や俗説とは区別して、確かな根拠のある事実情報を集積し、整理して体系を作ってきた。科学的に情報を収集し、分析するための心理学研究法について学ぶ。また、個人に対する人権意識の高まりと急速な高度情報化社会の進展に伴って定められた、情報の収集・分析・利用・管理に関わる関係法令等についても学習する。	
専門科目	選択	確率統計	「確率統計」では、確率統計的な現象に対する基礎的な概念を理解するとともに、そのような現象に対処する手法を習得することを目的とする。講義では、数学的な体系や緻密性にこだわらず、応用を念頭に置いて、それに必要な基礎的な事項を実際のデータをもとに説明する。内容としては、確率統計現象、データと確率、不規則変数と確率分布、標本抽出、統計的推定と検定、最小二乗法と相関分析を扱う。	
専門科目	選択	情報数学	コンピュータ科学が成熟するに従い、実際的な問題を処理するために、より洗練された解析技術が必要となる。情報数学は、情報科学の理論的基礎を構成する内容を初歩から理解することを目的とした講義形式の科目である。内容としては、集合、指数と級数、写像と関係、真理値表とスイッチング回路、定理の証明同値関係と半順序関係、束とブール代数、集合の濃度を扱う。	
専門科目	選択	基礎数学 A	情報理論や情報科学を学ぶにあたって必要となる数学のうち、微分と積分の基礎について講義する。具体的には、一変数を対象とし、まず微分に関して、微分の定義から始め、微分法や各種関数の微分、テイラーの定理等を学ぶ。次に、同じく一変数の積分について、積分の概念、不定積分、定積分等を学ぶ。高校で数学、を履修していない学生も履修できるようにカリキュラムを工夫する。必要であれば、演習・小テストなども随時行う。	
専門科目	選択	基礎数学 B	情報理論や情報科学を学ぶにあたって必要となる数学のうち、線形代数の基礎について講義する。具体的には、ベクトルの概念から始め、平面(2次元)と空間(3次元)のベクトルの演算について学んだ後、行列の概念、行列とスカラー・行列とベクトル・行列と行列の演算、行列式とその性質などを学び、最終的には線形連立1次方程式を解けることを目標とする。高校で数学、を履修していない学生も履修できるようにカリキュラムを工夫する。必要であれば、演習・小テストなども随時行う。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	ネットワーク通信入門	ネットワーク通信は、コンピュータシステムの基本構成要素の1つとみなされる重要なものである。本講義では、ネットワーク通信技術を理解するために必要となる基礎知識、概念等を学ぶ。説明は、コンピュータの初心者にも分かるように、専門的知識を前提とせず、例を取り入れながら丁寧に行う。内容は、インターネットの歴史と特徴、インターネットの基本的仕組み、電子メールの仕組み、WWWの仕組み、インターネットの安全性、通信速度と容量の単位である。この他、データ圧縮や暗号化等についてもトピック的に触れる。	
専門科目	選択	応用 コミュニケーション	論理的な伝達力を磨くための支援技術として、テキストと図式による情報伝達論をテーマとする。ここでは特に数学を苦手と自覚する学生を念頭に置く。全体と要点を押さえたテキストの把握、図式を用いた静的な論理構成の把握、関連や因果の関係など動的なインタラクション構成の把握、さらには動的な変化やばらつきを示すグラフの把握などの技術を取り扱う。さらにコミュニケーションにおいて、直接的な論理と共に間接的な作法なども合わせて理解させ、実践のための知恵を習得する。	
専門科目	選択	情報倫理	ITとしてのインターネットは身近な生活・産業の重要なインフラストラクチャーとなっている。講義では現在ITを利用し始めた機関や将来ITの導入を考慮している機関に所属することを想定して、IT基礎技術、情報倫理、IT導入の功罪、IT利用に関する長短所を紹介する。IT社会には、光と影の部分があり、IT社会における被害防止・加害防止のために、自分自身が必ず理解しなければならないことについても自覚を促す。	
専門科目	選択	地球環境学の基礎	地球温暖化問題は21世紀の日本と地球環境にとって最重要課題の一つとなっている。人口増加や工業化の進展とともに、深刻化する森林資源の減少、農業生産の減少、自然生態系への影響を含む複合的な地球環境問題のメカニズムを概説する。海洋汚染や水資源の枯渇、酸性雨などのサブグローバルな環境課題に触れるとともに、エネルギー問題は、環境技術の開発、ライフスタイルの転換、環境都市の創造など最先端の取組についても学習する。	
専門科目	選択	自然生態学の基礎	人間活動が植物や動物等の自然生態系に与える影響を学ぶとともに、自然と共生できる都市環境システムのあり方について学習する。ランドスケープエコロジーの理論、生物の生息調査法、自然共生を目指した国内外の政策システム、さらには生物の生息空間(ビオトープ)を形成するための基礎理論、環境修復の具体的な事例、大学周りのミティゲーション例などについて学習する。	
専門科目	選択	卒業研究	「卒業研究」の目的は、これまでに履修した各科目の総まとめであり、それらの理解を深めると共に、さらに深い知識や新たな問題に対応する能力を養うことにある。卒業研究は各研究室に分かれて行う。研究テーマの設定の方法も研究室毎に異なる。あらかじめいくつかのテーマが用意されていることもあれば、自分でテーマを設定することもある。各自のテーマについて自発的に取り組み、指導教員と適宜議論しながら研究を進めていく。	
専門科目	選択	卒業研究	「卒業研究」の目的は、これまでに履修した各科目の総まとめであり、それらの理解を深めると共に、さらに深い知識や新たな問題に対応する能力を養うことにある。卒業研究は各研究室に分かれて行う。研究テーマの設定の方法も研究室毎に異なる。あらかじめいくつかのテーマが用意されていることもあれば、自分でテーマを設定することもある。各自のテーマについて自発的に取り組み、指導教員と適宜議論しながら研究を完成させてゆく。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	卒業制作	「卒業制作」の目的は、これまでに履修した各科目の総まとめであり、それらの理解を深めると共に、さらに深い知識や新たな問題に対応する能力を養うことにある。卒業制作は各研究室に分かれて行う。制作テーマの設定の方法も研究室毎に異なる。あらかじめいくつかのテーマが用意されていることもあれば、自分でテーマを設定することもある。各自のテーマについて自発的に取り組み、指導教員と適宜議論をしながら制作を進めていく。	
専門科目	選択	卒業制作	「卒業制作」の目的は、これまでに履修した各科目の総まとめであり、それらの理解を深めると共に、さらに深い知識や新たな問題に対応する能力を養うことにある。卒業制作は各研究室に分かれて行う。制作テーマの設定の方法も研究室毎に異なる。あらかじめいくつかのテーマが用意されていることもあれば、自分でテーマを設定することもある。各自のテーマについて自発的に取り組み、指導教員と適宜議論をしながら制作を完成させてゆく。	
専門科目	選択	プログラミング技法	プログラミング言語に習熟することはコンピュータ科学の学習にとって必要不可欠である。「プログラミング技法」は、プログラミング未経験者がはじめてプログラミングを学ぶための講義形式の科目であり、Java言語を用い主として文法的知識を身に付けることを目的とする。内容としては、Javaの基本構文、変数・型・式・代入、単純な入出力、条件判断と繰り返しの制御構造、配列、関数と引数受渡しを扱う。	
専門科目	選択	プログラミング技法	「プログラミング技法」は、初等プログラミング経験者が上級プログラミングを学ぶための講義形式の科目であり、主にデータ構造やJava言語によるオブジェクト指向プログラミングの基礎を身に付けることを目的とする。内容としては、構造体、リスト、ファイル入出力、高度なファイル操作、クラス・オブジェクト、継承・インタフェース、例外処理、パッケージを扱う。	
専門科目	選択	アルゴリズムの基礎	アルゴリズムはコンピュータ科学とソフトウェア工学の基礎である。「アルゴリズムの基礎」では、アルゴリズム設計の際に参考となる考え方や設計指針を身につけることを目的とする。特定の分野に限定することなく、アルゴリズムの開発に必要な基本的アイデアを具体例を用いて講義形式で説明する。内容としては、代表的なアルゴリズム(ソート、大きな整数の掛け算、行列式の計算、フーリエ変換など)、アルゴリズムの効率と解析、分割統治法、ダイナミック・プログラミング、グラフアルゴリズム、確率アルゴリズム、計算量の話題(NP完全性など)を扱う。	
専門科目	選択	オートマトン	有限オートマトンと正則集合の等価性、プッシュダウンオートマトンと文脈自由文法の等価性を主テーマとして取り上げて、オートマトン理論と数理言語理論の基礎を習得することを目的とする。授業形態は講義形式であり、内容としては、基本的用語の定義、決定性有限オートマトン、非決定性有限オートマトン、 ϵ -動作を含む有限オートマトン、正則表現、有限オートマトンと正則表現の等価性以上、文脈自由文法、導出本、Chomskyの標準型、Greibachの標準型、プッシュダウンオートマトンと文脈自由言語、Turing機械を扱う。	
専門科目	選択	コンピュータアーキテクチャ	コンピュータの基本的なアーキテクチャについて学習し、計算機システムの機能的要素やその性質・性能・相互作用について一定の理解と認識を得ることを目的とする。まず、コンピュータアーキテクチャの基礎として、データ形式・命令形式・アドレス形式・記憶形式について説明し、次にコンピュータアーキテクチャの方式として、逐次型・アレイ型・パイプライン型・CISCとRISCについて説明する。最後に、新しいコンピュータアーキテクチャとして、VLSI型コンピュータアーキテクチャ・データフロー型コンピュータ・ニューロネットワークを扱う。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	オペレーティングシステム	「オペレーティングシステム」は、オペレーティングシステム概念とその内部構造を理解することを目的とする講義形式の科目である。内容としては、オペレーティングシステムの目的・役割、オペレーティングシステムの階層構造（カーネル層・システム層・ユーティリティ層・ユーザ層）、プロセスの内部構造（プロセス木・カーネルプロセス・ユーザプロセス）、プロセスの状態と遷移（プロセス状態・オラクルプロセス・プロセスダイナミクス）、ファイル構造（ファイル木・ディレクトリ構造・i ノード）、仮想記憶の構造を扱う。	
専門科目	選択	ネットワークコンピューティング	情報ネットワークはITの基盤技術の一つである。講義では、TCP/IPプロトコルとそれを用いた技術に関する知識を習得することを目的とする。内容としては、ネットワークアーキテクチャ（物理層・データリンク層・ネットワーク層・トランスポート層・セッション層・プレゼンテーション層・アプリケーション層）、経路制御とIPアドレス、ネットワークセキュリティ、フォールト・トレランス技術、ネットワークプログラムを扱う。	
専門科目	選択	情報セキュリティ	情報の保護とセキュリティの必要性、コンピュータ利用における倫理の役割を学び、情報の保護とセキュリティを提供するために用いられるオペレーティングシステム及びネットワークの技術と限界に関する知識を習得することを目的とする。内容としては、オペレーティングシステムにおけるセキュリティ（システムセキュリティの概要・セキュリティの方式と装置・メモリ保護）、ネットワークにおけるセキュリティ（暗号の基礎・秘密鍵アルゴリズム・公開鍵アルゴリズム・認証プロトコル・デジタル署名）を扱う。	
専門科目	選択	プログラミング言語論	プログラマは単に一つの言語によるプログラミングの方法を知っているだけでなく、様々な言語が提供する異なったスタイルのプログラミングを理解する必要がある。プログラミング言語論は、プログラミング言語の発展の歴史を概観し、それぞれのプログラミング言語が持っている特徴を理解することを目的とする講義形式の科目である。内容としては、プログラミング言語の発展の歴史、プログラミングパラダイムそれぞれの特徴、異なるパラダイムの間でのトレードオフ（メモリ効率・時間効率・安全性・表現力など）を扱う。	
専門科目	選択	信号処理	デジタル信号処理技術は、電子計算機の普及と密接に関連しながら発展して来ており、通信、音声処理、認識、コンピュータビジョン、計測など多くの分野で共通の基礎技術となっている。講義では、デジタル信号理論の基礎を習得することを目的とする。内容としては、信号のデジタル化、ラプラス変換、Z変換、離散フーリエ変換、高速デジタルフーリエ変換、デジタルフィルタ、二次元デジタル信号を扱う。	
専門科目	選択	人工知能	人間の思考過程を計算機により模擬しようとする人工知能において、種々の応用システムを構築する際にその基礎となる考え方の習得を目的とする。講義内容としては、問題の定式化と探索（状態空間表現、AND/ORグラフ、系統的な探索、評価関数を利用した探索）、記号と推論（第1階述語論理、導出原理、論理プログラミング）、知識の表現と利用（プロダクション・システム、意味ネットワーク、フレーム・システム）、機械学習（バージョン空間法、決定木の学習、強化学習）を扱う。	
専門科目	選択	パターン認識	パターン認識は広い意味での人工知能の分野に属し、記号推論と共にその双璧をなす。講義では、パターン情報を機械処理できる表現形態に変換していく過程と、その技術について文字・図形認識を中心として講述し、パターン認識技術に関する知識の習得を目的とする。内容としては、パターンの表現と構造、パターンの前処理、パターンの特徴抽出、パターンの識別、ニューラル・ネットワークによる認識システム、認識機械を扱う。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	データベース	IT社会においてデータベースは必須のツールである。講義では、現在最も多く利用されているリレーショナル・データベースを主な題材として、データベースシステムの仕組みや基本概念、データベースのモデリング、正規化、操作演算などについての知識を習得することを目的とする。内容としては、データベースのモデル、リレーショナルデータベース、データベース言語(SQL)、データベースの設計、トランザクション処理、データベース管理システム(DBMS)を扱う。	
専門科目	選択	ソフトウェア工学	「ソフトウェア工学」では、高品質なソフトウェアを効率的に開発するための学問体系であるソフトウェア工学の基本概念を学ぶことを目的とする。まずソフトウェア開発の流れ(ソフトウェア開発過程)について、次にソフトウェア開発過程の各工程で行う作業について学ぶ。とりわけ、オブジェクト指向に基づく分析、設計作業をUMLというモデル記述言語を用いて学習する。その後、プロジェクト管理、品質保証活動として、インスペクション、テスト作業について学ぶ。	
専門科目	選択	ソフトウェア工学	ソフトウェアを開発する者にとって、オブジェクト指向プログラミングは習得すべき技能である。ソフトウェア工学IIでは、C++言語を取り上げ、オブジェクト指向のエッセンスを学ぶ。具体的内容としては、C言語とC++言語の機能、抽象化、コンストラクタとデストラクタ、演算子の多重定義、継承/派生クラス、仮想関数/多重継承を扱う。授業では、毎回1つか2つのトピックについて解説を行い、簡単な演習を行う。	
専門科目	選択	情報システム管理	情報システム管理では、UNIX系OSを中心とした情報システム管理の技法を扱い、UNIX系サーバを管理できるスキルを身につけることを目的とする。講義の前半ではOSのインストール、ユーザ、ディスク管理などを中心とした、個々のUNIXマシンの管理と、プロセス管理、ファイル管理などUNIXを使用する上で基本となる事項を扱う。後半ではNIS、NFSなどのUNIX系ネットワーク管理とファイル共有、およびWWW、メール、DNSなどのサーバの設定と運用を扱う。	
専門科目	選択	プロジェクト管理	「プロジェクト管理」では、定められた期日までに人・物・金などの経営資源を効率的に使用して特定の目的を達成するプロジェクトのマネジメントの手法を、情報システム開発を対象にPMBOK(Project Management Body of Knowledge)をベースにして習得することを目的とする。内容としては、プロジェクトマネジメント概説、スコープ・マネジメント、タイム・マネジメント、コスト・マネジメント、品質マネジメント、リスク・マネジメント、コミュニケーション・マネジメント、ケーススタディを扱う。	
専門科目	選択	CGの理論と実践	「CGの理論と実践」では、与えられたアプリケーションソフトを単に利用するだけでなく、コンピュータで3次元グラフィックスを生成するための理論及び諸技術の習得を目的とする。講義で理論的内容を説明し、プログラミング課題を課すことで実践力を養う。内容としては、3次元座標系、表色系、レイ・トレーシング法(原理、反射現象の表現、映り込みの表現、透過屈折現象の表現、アルゴリズム)物体の表現、同次座標、アフィン変換、光源の表現を扱う。	
専門科目	選択	画像処理の理論と実践	「画像処理の理論と実践」では、与えられたアプリケーションソフトを単に利用するだけでなく、コンピュータで2次元静止画像を扱う際に必要な理論及び諸技術の習得を目的とし、デジタル画像の内部表現、各種画像処理アルゴリズムについて学ぶ。講義で理論的内容を説明し、プログラミング課題を課すことで実践力を養う。内容としては、デジタル画像、画像フォーマット、表色系変換、濃度変換、空間フィルタリング、2値化処理、2次元離散フーリエ変換、周波数フィルタリングを扱う。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	芸術論	人間の芸術活動の歴史的な経緯を考察しながら、現代における芸術の機能を多角的に捉えて解説する。芸術の発生、芸術の展開、芸術活動の社会的な自立、芸術の再職業化、といった点を、歴史的に概観して、現代における芸術のあり方、その捉え方の可能性を探る。その際、芸術を考察するための、歴史的手法、解釈学的手法、美学的手法、認知科学的手法、社会学的手法などの有効性と限界とを簡潔に紹介して、ディスカッション形式で授業を行う。	
専門科目	選択	感性学	ヒトという生物種にとって、感覚と感情がいかなる働きを持つのかを、神経生理学、大脳生理学、分子生物学、動物生態学などの知見を参考にしながら解説し、感性(感覚と感情)が人間の文化的な営みにどのような役割を果たしているのかを考察する。特に、知的な情報処理と感情的な対象の受容との関係が、対象の認知にどのような関係を有するかを中心に、感性的な認識が認知全般の基盤を形成していることを学修する。	
専門科目	選択	文化論	文化とは何か、というテーマに沿って、文化と学術、文化と文明、文化と科学技術といったサブテーマを設定しながら、歴史に現れる文化史のエポックを紹介して、文化という概念に関する理解を深める。とりわけ現代における情報テクノロジーの急速な発展が、文化のありように大きな影響を与えていることを詳説して、テクノロジー社会における情報科学の文化に対する責任を考察することを大きな目標とする。	
専門科目	選択	コンテンツ作成技法	Webデザインでは、動きのあるコンテンツとインタラクティブ(応答型)な構成により、非常に印象的で、かつ来訪者へのサービス水準の高いサイト作りが行われており、さまざまなコンテンツが作成されている。こうした最先端のコンテンツ作成技法は急速に進化し続けている。このような最先端の技術を駆使したコンテンツ制作を目標として、基礎となる技術や技法を学ぶ。また、動画コンテンツ作成ツールの紹介を行う。	
専門科目	選択	映像学	映像とは何かという問いを多角的に学ぶ。視覚文化を批判的に読み解き、分析できるように、理論的な思考を身につける。映像分析の手法を身につけるために、さまざまな理論的枠組みを検討する。映像のアルケオロジー、写真論、初期映画の諸問題、近代性と映画など、さまざまな視点から映像学の基礎的な枠組みと概念を取り上げる。	
専門科目	選択	サイエンスとアート	一見無関係に思える科学と芸術というふたつの活動領域が、実は非常に密接な相互関係にあることを、まずはレオナルドに始まるルネッサンス以来の歴史的な事例に則して解説する。さらに現代において、科学的な営みと、芸術活動とが以前にも増して活発に交流していることを、キュビズム、臨床医学と文学、メディアとメディアアート、メディア産業と商業的なアート(映画、映像作品、アニメーション、ゲームなど)の実例を豊富に用いながら解説する。それによって学生に、新たにアートとサイエンスとの関係を発想させるという創造性の育成が目標である。	
専門科目	選択	ファンタジー論	クリエイターにとって欠かせない想像上の物語であるファンタジーについて、その代表的作品に焦点をあてながら、成り立ち、流れについて概説する。人々が感動する創造的なファンタジーにとっての必要条件とはなにか、数々のヒントを提供する。アニメ、TVドラマ、コミック、TVゲームソフトなど対象分野は広い。メディアのジャンルを問わず古今東西の作品を対象に考察していく。	
専門科目	選択	コンテンツ作成のためのCG	CG(コンピューターグラフィックス)に関連して、CGとは何か、CGで何が出来るか、そのために何をすればよいかを講義する。具体的には、CGの歴史、CGで用いるハードウェアとソフトウェア、CGの目的、CGの原理、CGの利用形態や利用例、CGの作成方法等について学ぶ。座学を基本とし、必要に応じて演習を行い、簡単なプログラミングやCGのソフトウェアを用いた作品を作る。これらを通して、CGとCGを利用した各種コンテンツの関係を理解することを目標とする。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	ゲームの歴史	現在のエンターテインメントの代表である各種ゲームがどのような生い立ちであるかを理解するため、ゲーム機の歴史とゲームソフトの歴史を概観し、現状のゲームの分析を行う。ゲームが果たしている役割について、社会的、心理的、技術的側面から考察を加える。今後のゲームがどのようなものとなっていくかの予想を行う。	
専門科目	選択	コンテンツ作成のための画像処理	科学技術からテレビCMまでデジタル画像処理は幅広く用いられている。ここでは、まず、画像処理の歴史、画像処理の種類、画像処理の用途、画像処理の手法などを概観する。次に、様々なコンテンツ(テレビ/映画などのエンターテインメントから科学技術/医療などの理工学分野まで)を例にとって、コンテンツと画像処理との関連や、画像処理の方法と画像処理がコンテンツに与える効果などについてより詳しく学ぶ。必要であれば、簡単な実習あるいは実演をからめてより深い理解を目指す。	
専門科目	選択	ヒューマンインタフェース	「ヒューマンインタフェース」では、人間とコンピュータとのインタラクションをスムーズに行うためのインタフェース作りの基礎となる基本原則、評価方法、設計方法に関する知識を習得することを目的とする。内容としては、ヒューマンインタフェース概論、コンピュータと人間のインタラクション、入力装置と表示装置におけるヒューマンインタフェース、ヒューマンインタフェースの設計と評価、ユーザビリティ評価、人間の情報処理特性、人間の情報処理モデルを扱う。	
専門科目	選択	メディア表現論	情報機器、特にマルチメディアを用いて行われる表現とそれがどのような効果をもつかについて講義する。具体的にはインタラクティブ(会話的)メディアとノンインタラクティブメディア、画像/音声/文字による表現、動画と静止画、CGとVR(バーチャルリアリティ)、情報の受信と発信、などそれぞれの項目を対比させながら、マルチメディアを用いた表現について総合的に学ぶ。また、最新のハードウェアやインフラ(携帯電話、インターネットなど)も含め、様々なマルチメディアでどのようなコンテンツがあるのかも併せて理解する。	
専門科目	選択	アニメーション文化論	本講義ではアニメーションについて、これまで下流と見なされ、学問や教養の埒外に置かれてきた文化の一翼を中心に、その発展過程や日本的特質を議論する。日本は、輸入文化を本流とする文化構造をとってきたが、国内独得の発達を遂げ、下流とされてきた文化が高い輸出価値を帯びようになっている。本講義では、そのような日本文化のアニメーションに特徴づけられる独自性を検討してゆく。	
専門科目	選択	ネットワーク社会論	ネットワークが作り出す便利な社会は、危険な側面も持つ。新たなビジネスツールとなる反面、ビックニングや情報流出などの危険性を持っている。本講義では、ネットワーク社会を実現しているネットワーク技術の概要とともに、これが社会に与えている影響を考察し、いかにしてネットワークを活用するか、いかに危険を回避するかを考える。ネットワーク社会をより、実りあるものにしていくための方策について考えられるようにする。	
専門科目	選択	情報メディア論	20世紀のメディアは長らくラジオ、テレビ、電話であったが、21世紀に入るところからインターネット、携帯電話など新しいメディアが急速に全世界的に広まった。メディアの歴史からはじめ、メディアが新たな社会的問題を生み出しつつあること、メディアによる表現は多様化しつつあること、3次元コンピュータグラフィックスの進歩による仮想現実空間などを論じる。また、表現の自由、著作権などの法的問題、表現広告についても学ぶ。	
専門科目	選択	マルチメディアシミュレーション	従来行われて来たような、数値データを入力し数値データの出力を得るという形態のシミュレーションではなく、画像や音声等の様々な情報を入力データとして取り扱う新しいシミュレーション技法について学ぶことを目標とする。基本的には座学の講義形態を取るが、講義名の通りマルチメディアを駆使した講義を行い、必要に応じて演習形態を取ることににより、マルチメディア・シミュレーションを体験させる。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	デジタルデザイン	本講義では、ものづくりという観点から、コンピュータを使ったデザインが人間生活、産業、経済とどのように関わっているかということを中心にすることを目的として講義する。特にインダストリアルデザインに重点をおくが、本講義ではそのみならず、コンピュータを使ったデザインの手法、その背景となる力学的基礎知識、人間の感性との関わり、コンピュータ応用工学、経済や組織との関わりなど幅広く講義する。	
専門科目	選択	技術文化史	人類の歴史において、技術の発展が文化に対してどのような影響を与えてきたのかを、技術と文化、技術と経済構造、技術と社会構造、技術と人間観といったインタラクティブな概念を通して学修する。授業にあたっては、レンズの発明、印刷技術の発明、電気器械の発明、コンピュータの発明などを大きなテーマとして、とりわけ19世紀以降、技術開発が文化の動向に決定的な影響を与えていることを理解させる。	
専門科目	選択	エコデザイン論	生活の中から地域に至るまで、地球環境を守るため、生きものの生息環境を守るため、そして、人間がよりよい生活を営むための基本的な考え方を教授するとともに、その具体的なデザインへの展開に向けての基礎的な知識と具体例を紹介して、受講者の環境への意識の向上とともに、社会に向けて実践的な活動ができる人材の育成をめざす。具体的には、水・熱・空気・緑・光・音という6つの環境要素を軸に、技術的な側面、システム的な側面、活動的な側面から、エコデザインのための基本を図表や写真で紹介するとともに、地域における実地調査等を通じて、エコデザインの可能性を論じてもらう。	
専門科目	選択	環境コミュニケーション論	企業の社会的責任(CSR)の一環による環境行動に関するコミュニケーション活動の実施が、市民サイド及び企業サイドの双方から求められている。このような社会の求めに応じた活動の現状と課題、情報システムの活用を論じるとともに、環境コミュニケーションを参照する、または参加するなどの活動を実践的に行う機会を設けることで、実践力の向上と、社会における環境コミュニケーションの活性化の双方の役割を果たす。	
専門科目	選択	都市エネルギー情報論	都市における水・熱・材料・化学物質などの資源及びエネルギーの投入と排出をとらえるとともに、有効に活用するための基礎知識と応用について講義形式で教授するとともに、学生と意見を交えながら実践的に学んでもらう。都市の資源及びエネルギーを個人または組織(事業所)単位から、都市レベルまでさまざまなスケールで見えた場合にどのような要素やシステムが存在するのか、資源やエネルギーに関する情報はどのようにとらえるのか、これらを適切に選択して有効活用することによって資源及びエネルギーはどれくらい削減を図ることができるのかなど、個人や組織(事業所)から都市レベルの環境管理への応用をめざした講義を行う。	
専門科目	選択	環境ビジネス論	調査から計画、評価、意思決定に至る「計画システム論」を紹介したうえで、持続可能な社会を目指すビジネス論として、田園都市論やコンパクトシティなどの共生の環境計画論、持続可能な都市形成に向けての立地論を教授する。環境基本計画の成立によって、循環共生の概念により変革されたわが国の環境と計画の政策体系を紹介した上で、エコインダストリアルパークやエコシティ、サステイナブルシティなどの持続可能な都市環境を実現する環境ビジネスの実践例を紹介する。	
専門科目	選択	環境マネジメント論	環境問題は多様化、かつ複雑化し、身近な健康問題から地球温暖化等の地球環境問題までその対象が大きく変化している。地球規模での環境負荷の低減化が国際条約の発効で行われているように、事業者等の環境管理についても、国際標準化機構(ISO)によって環境マネジメントシステムISO14001規格が制定され、構築、運用、維持されている。本講義では、身近な環境問題から地球規模の問題までの社会的なトピックを講義するとともに、環境問題をふまえた事業における環境マネジメントシステムについてISO14001規格を通して学ぶ。	

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択 環境イノベーション論	持続可能な社会を実現するための環境創造のイノベーションについてその論理と実践的な技法について講義する。工業文明を支える礎(いしずえ)としての近代都市の建設が始まって1世紀以上が経とうとする。本講義では20世紀に膨大な都市と建設のストックが構築された社会と環境の背景を解説するとともに、環境基本法などの新しい制度の仕組みを最初に紹介する。その上で都市環境を循環共生型に転換する技術と計画、経済社会のシステムイノベーションについての最先端の研究論と手法を提供する。	
専門科目	選択 サービスサイエンス	サービスと称するインタラクションの評価設計論をテーマとする。提供者側からの作用によって、利用者側が価値を認めるものがサービスの基本である。そしてこの作用と価値との関係は必ずしも一対一の対応ではなく、双方向の性格も有する。提供者側においてサービスをどのように企画構成することが、利用者側さらに社会全体にとって満足度が高くなるのか、その構造を理解する。サービス設計に関して、利用者ニーズの把握、作用プロセスの数理科学による分析、利用者側や社会の価値の評価構造などを取り扱い、実践へとつなげる知見を修得する。	
専門科目	選択 都市情報論	人間が集団をなすゆるやかな組織である、地域に根ざした都市に関わる情報論をテーマとする。都市は多様な属性を持つ主体の活動の集積で構成され、その基盤は情報そのものと見ることができる。都市の静的構成や物的な都市計画における情報の役割、動的な都市活動を支える交通の仕組みと高度情報化、市民の参画における情報活用の効果、環境向上に果たす情報の枠組み等を取り扱う。情報のインタラクションの視点から都市の計画と運営、市民の評価に関する知識を修得し、持続できる共生集団における情報の意義を理解する。	
専門科目	選択 ビジネスアーキテクチャ	ビジネスと総称されるシステム活動の構成と挙動をテーマとする。建築の基本構成の意味から派生してコンピュータの機能構成へと育ったアーキテクチャの概念から、広義ビジネスとして収益を目標とする企業組織と社会基盤を構成する非営利組織までを取り扱う。組織を構成する各要素の個別活動と相互作用としての有形無形の情報などの流れの構造を見極める能力を養う。さらに、人間界・自然界や人工物システムの構成とのアナロジーも理解しながら、構成の組み替えやプラットフォーム化からイノベーションの可能性を探る。	
専門科目	選択 環境会計学	企業は取り巻く利害関係者にその活動情報を報告する必要がある。この講義では会計の面からその情報の編集手法と意義を解説する。まず、資産・負債・資本の考え方と共に企業の財務会計情報の代表的な伝達手段である財務諸表(損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書など)の仕組みとこれによる財政分析方法を理解する。これら基礎知識を得た上で、近年重要度を増してきた企業の環境会計情報を取り扱う。環境に関わる費用の認識を基に、内部環境会計、外部環境会計、環境報告書の現状と経営における意義などを学ぶ。	
専門科目	選択 企業マネジメント情報論	企業活動において、人・物・経済の資源を有効に活用するためにはマネジメント活動が不可欠である。そして、企業経営において情報システムは意思決定を支援する管理技術として発展してきた。この講義では、マネジメント活動の要素を解説すると共に、これら全体をまとめていくプロセスを学ぶ。急速な外部環境の変化に対応しながら持続性と優位性を確保するためのマネジメントについて、情報技術の果たす役割と課題を理解する視点を養い、分析のための理論を修得することを目的とする。	
専門科目	選択 社会マーケティング論	企業活動における、顧客の満足度の向上や価値を創造するための活動がマーケティングの核となる概念である。この講義では、そのための基礎的な考え方として、市場のセグメント構造、ポジショニング、製品や価格に関する戦略などを取り扱う。さらに、ブランディングとコミュニケーションをテーマとした戦略について論を進め、特に価値ある情報の有効性と情報技術の果たす役割を理解し、今後の方向性を見通す素養をみがく。これによってマーケティングシステムの実践における企画力と分析力を修得する。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	ビジネス情報論	ビジネスプロセスのイノベーションにおいてIT技術の導入の効果はとりわけ大きいものがある。インターネットの普及により既存の生産活動が効率化され、新しい業種・業態のビジネスが創成されている。そのキーワードは有効な情報連携である。本講義では、経営戦略とIT戦略を連携させた新しい経営組織・管理・活動について事例を含めて解説し、IT技術の効果を理解するとともに、個人情報や商取引におけるセキュリティ問題についても言及する。	
専門科目	選択	地理情報論	個人の行動や輸送活動における経路計画、企業におけるエリアマーケティング、地域における自然環境の整理や活動の活性化計画など、さまざまな分野で地理情報の応用がなされている。この講義は地理情報の有効性を理解すると共に、これらを表現・管理・分析するための情報管理システム(GIS)の仕組みを解説する。さらに地理情報を用いた空間分析手法の具体的な事例を紹介し、価値ある意思決定を支援する意義を理解する。	
専門科目	選択	経営環境モニタリング	企業経営活動を維持向上して行くためには、常に経営状況を監視して適切な改善策をとる必要がある。そして状況の監視においては、企業のおかれた環境に関する必要な情報をもれなく網羅したモニタリングが欠かせない。この講義では、モニタリングの役割を理解し、最先端の考え方と実践例を解説する。さらに、環境保全や社会的責任と経営の両立を図ることにより、持続可能な経営の方策を教授する。	
専門科目	選択	エコロジー情報論	エコロジーとは通例は生態系や生態学を意味し、生物間と取り巻く環境との相互関係など共生を取り扱う学問である。まずは生物が相互関係を持ちながら環境システムを構成する特徴を修得してもらう。そして、エコロジーはエコノミー(経済学)と語源を同じくするものでもある。そこで、システムの中の要素の振る舞い形態として一般化し、人間や情報の個と社会や環境、情報システムとの相互関係へと議論を進展させ、人間を中心とする参加型情報システムの見方考え方を教授する。	
専門科目	選択	入門心理統計学	人間を対象とする科学においては、観察・実験・調査・テストその他、様々な方法によってデータを収集し、それらに基づいて実証的な研究を進めていく。観測されたデータをどのように整理し、分析し、推論し、結論づけていくかに関する方法として、心理学の分野やその関連領域で用いられる基本的な統計手法について学ぶ。レポート作成や卒業研究の計画・実施・整理などに実際に応用するという観点から学習する、応用への入門的な講義である。	
専門科目	選択	応用心理統計学	心理学で扱われる種々の測定データを分析するのに、心理統計学が必要となる。心理統計学の基礎を学んだ後のさらなる発展として、多変量解析や質的データの解析を学び、統計ソフトウェアSPSSを用いて、心理学測定データの解析の実際にも触れる。	
専門科目	選択	異文化間コミュニケーション	グローバルな環境にある現代社会において、文化の壁を越え、正しく誤解のないコミュニケーションをすることは絶対条件である。本講義では、そのために不可欠な異文化間コミュニケーションの必要性を認識させた上で、その具体的なノウハウを習得させることを講義目標におく。なお、授業は講義形式で行い、必要に応じて学生と意見を交換しながら授業を進める予定である。	
専門科目	選択	臨床心理学	臨床心理学とは、心理的な問題を抱える、また心理的な問題のために身体的な問題を抱える人を専門的に援助し、問題の改善や治癒を目指し、そのために必要な理論や技法を学んでいく。具体的には、各発達段階での心理的問題、その問題に対する援助方法について解説していく。	

(総合情報学部 総合情報学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択	社会調査法	社会集団における社会事象に関するデータを科学的に収集・分析することによって、社会現象の解明に資する情報を提供する方法として、社会調査法を学習する。調査は、問題を認識し、調査目標を設定するところから始まり、調査日程・調査方法・母集団・標本の抽出単位・費用など調査の仕様を決定し、項目を作成し、標本を抽出し、予備調査を経て本調査を実施し、調査データを分析し、報告書を作成するという調査の各プロセスの習得が中心になる。	
専門科目	選択	人間環境デザイン心理学	人と環境の相互作用を考えると、物理的環境だけではなく、人が環境をどう捉えるかという視点が重要となる。同じ物理的環境が与えられてもそれに対する心理的な反応や環境に対する認知には文化による差・経験による差・性格特性による差・精神的健康度による差がある。そこで、本講義ではこのような人間の心理的な要因から生じる環境に対する評価の差異について学び、よりよい人間環境をデザインしていくことを目指す。	
専門科目	選択	産業・組織心理学	産業・組織心理学が取り組む研究テーマは、(1)組織行動、(2)人的資源管理(人事)、(3)安全衛生、(4)消費者行動の大きく4つに分類される。本講義では、組織の中で働く人間の立場から、特に(1)、(2)、(3)の3分野を扱う。(1)では、職場の人間関係とコミュニケーション、リーダーシップなどを、(2)では、採用・選抜、適性検査、人事評価、キャリア・デベロップメントなどを、(3)ではメンタル・ヘルス、ヒューマン・エラーなどを扱う。	
専門科目	選択	産業カウンセリング概論	産業カウンセリングは、産業組織で働く人々を対象として、職場生活に関連して起こる問題や、その背景となる家族の問題、経済的問題、コミュニティの問題などについて望ましい解決や対処のための援助を行う。そこで、「産業カウンセリング概論」では、「産業カウンセリングの歴史」、「カウンセリングの原理及び技法」、「パーソナリティ理論」および「職場のメンタルヘルス」に関して学ぶとともに、「人事労務管理」、「産業カウンセリングに関わる労働関係法規」についても学習する。	
専門科目	選択	実験計画法	実験計画法は、数理統計学の1つの応用手法である。数理統計的手法の多くは、得られたデータの解析に主として用いられているが、実験計画法は、データの集め方を決める一つの有力な手法である。ここで扱う実験の目的は「実験結果を表す特性値に影響を及ぼすと考えられる諸原因系の作用を解明し、その最適条件を探る」ことにある。実験計画の基本的な考え方として用いられる統計的線形モデル、実験計画におけるパラメタの推定問題、パラメタに関する仮説検定の問題などを扱う。	
専門科目	選択	実験心理学	実験心理学は、被験者の行動を規定する環境的刺激条件をできるだけ厳密な統制の下におき、条件変化と行動の変化との間の関係を求めている。知覚・認知の領域を中心にして、実証科学的研究を目指す実験心理学の基本的な考え方を理解し、各自の研究に具体化する力を養うことを目的とする。実験心理学の理論的背景について学ぶとともに、主要な研究文献について討論することで、自ら実験・調査をデザインし、文献を調べ、結果を分析・考察し、報告することを学習する。	
専門科目	選択	認知心理学	認知心理学の広汎な分野の中から、とりわけコミュニケーションツールとしての言語の運用と習得に重要と考えられるトピックを重点的に扱う。具体的には長期記憶と作動記憶の振る舞いを概観し、さらに言語や一般問題解決能力の処理と学習について、知覚、認識、注意、意識・無意識などの概念に触れながら学習し、人間の認知活動のメカニズムと心のありようを理解することを目標とする。	

(総合情報学部 総合情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択 スポーツ心理学	現代におけるスポーツの普及と発展はめざましいものがあり、社会生活において欠くことのできないものになってきた。人は何故スポーツを行うのであろうか。スポーツ心理は、この素朴な問いに答えるところからはじまっている。スポーツにおけるパフォーマンスには、体力や技術とともに競技者の心理的側面が大きく反映する。このことが競技としてのスポーツの難しさになっているといえる。他方、スポーツにはその活動そのものに爽快感や充実感などといった心理的に望ましい作用があり、スポーツの楽しさになっているともいえる。スポーツ心理は、スポーツの難しさや楽しさに関わる心理的な事象を解明して、それらに合理的に対処することができるようにすることを目指したものである。	
専門科目	選択 健康心理学	わが国の高齢化対策として2000年厚生労働省より国民の健康づくり運動「健康21」が公示された。現在は2010年を目途としたこの運動が行政のみならず広く地域の民間団体にまで推進されているところである。健康心理は、人々の健康や運動に対する意識にどのように影響を及ぼしているか、また、身体活動・運動・スポーツに影響を与えている心理的要因を検討し、身体活動・運動行動の獲得、維持のため具体的な支援を研究する。	

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

(a) 教育研究上の理念、目的

本学は、昭和 22 年の学校教育法施行により昭和 24 年に文学部を設置し、東洋大学として発足した。その後の同 25 年に経済学部、同 31 年に法学部、同 34 年に社会学部、同 36 年に工学部、同 41 年に経営学部、平成 9 年に国際地域学部、生命科学部、同 17 年にライフデザイン学部を設置するなど、社会を先導すべく学問分野の開拓を進めてきており、現在では 9 学部を擁する総合大学である。

このうち工学部は、昭和 36 年に「機械工学科」、「電気工学科」、「応用化学科」、「土木学科」、「建築学科」の 5 学科体制で開設された。以後、昭和 51 年に「情報工学科」、平成 13 年に「コンピューショナル情報工学科」、平成 17 年に「機能ロボティクス学科」の 3 学科を加え、また時代の変化、要請に合わせて学科名称を変更するなどして、これまで発展を続けてきた。

現在、「機械工学科」、「電子情報工学科」、「応用化学科」、「環境建設学科」、「建築学科」、「情報工学科」、「コンピューショナル工学科」、「機能ロボティクス学科」の 8 学科体制（入学定員 960 名）となった工学部は、さらなる発展を目指し、平成 21 年 4 月に改組することとした。

改組にあたっては、新たに生体医工学科を加えるとともに、学部名称を「工学部」から「理工学部」に、「電子情報工学科」から「電気電子情報工学科」に、「環境建設学科」から「都市環境デザイン学科」にそれぞれ名称変更するなどして再編する。あわせて、工学部にあった情報工学科やコンピューショナル工学科などを母体に、東洋大学の 10 番目の学部として「総合情報学部」を新たに設置することにした。

総合情報学部は、東洋大学の教育理念である「合理的なものの見方・考え方」としての哲学の実践、社会におけるリーダとしての重要な資質である「知徳兼全」、「独立自活の精神」の醸成を基盤として、21 世紀社会において必要な情報通信技術（ICT：Information & Communication Technology）に習熟し、情報の収集・編集分析・表現に関する総合的な能力を持ち、社会を先導できる「フィロソフィーを持った第一級の情報の使い手」を育成することを目的とする。

この 10 年の間、我が国ではコンピュータとインターネットが爆発的に進展し、移动通信契約数が 1 億件を超えるなど、個々の人間が容易に情報を入手し、発信できるまでになり、いわゆるユビキタス社会の展開はいまや目前の状況である。

このような情報通信技術の進展は、個人や集団の意識や行動に対しても大きな変化をもたらしている。この状況下で、情報のコンテンツや表現に関する「情報の哲学」を持ち、人間への心理的な影響を理解し、情報を多彩な領域で正しく活用できる先導的人材が幅広く求められている。現に情報産業を例に取っても、理系学部のみならず文系学部の卒業生が数多く採用されている状況にある。

総合情報学部は、ユビキタス時代における「情報の哲学」を教育研究の基盤として、情

報を総合的に取り扱う学問分野として確立してゆく。その基礎学問は、情報科学や数学の「理」の知と、社会学、環境学や経営学、さらには心理学などの「文」の知の融合したところにあると考えている。そして、21世紀の情報社会を先導するために「理」の知と「文」の知の枠を超えた新たな教育の展開を進め、情報の価値を多様な場面や手法で高めることができる第一級の情報の使い手を育成するものである。

この趣旨は、「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」という大学の担うべき目的と合致する（学校教育法第83条）。また「東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成する」という本学学士課程の目的とも合致するものである。（東洋大学学則第2条）

（b）どのような人材を養成するのか

総合情報学部は、すでに言及したようにユビキタス時代におけるフィロソフィーを持った第一級の情報の使い手として、高度情報社会を先導することに貢献できる人材の育成を目指している。

本学部の卒業生は、情報通信技術（ICT）に習熟した使い手として、社会のさまざまな業種に対応することが可能である。あらゆる産業において、情報を総合的に応用した科学的なアプローチにより、業務の効率化や円滑化に資する能力を持った人材が求められており、さらに拡大する状況にあるからである。

彼らは情報工学を専門としたソフトウェア構築を担う人材として採用されるに止まらず、メディア活用の効果、環境への配慮や経営システムの構造、人間心理への影響などを合わせて掌握することが求められる、広い意味でのシステムエンジニアなどの主導的立場を担うことが期待される。

こうした情報通信技術の活用術を身につけた卒業生の活躍の場として想定される業種としては、情報産業、サービス産業、製造業、教育、マスコミ、流通ビジネス、環境ビジネス、建設マネジメント業、公的機関などであり、職業では、システムエンジニア、ITプランナー、メディアクリエイター、情報アナリスト、カウンセラー、映像アーティスト、環境デザイナー、公務員、大学院進学などがあげられる。

そのいずれにおいても、総合性を有する高度専門職業人として養成できるものと考えている。また、本学科が養成する各種人材は、その設立趣旨からして地域貢献や産学官の連携に情報通信技術の面から寄与し、国際的視野に立脚した人材となることが期待される。

イ 学部、学科等の特色

総合情報学部は、学術の中心としての大学を意識し、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教育研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的としている。（学校教育法第83条）

また、総合情報学部は、先に述べた総合情報学部の理念の具現化のため、教育研究の必要に応じ組織されるものであり、教育研究上適当な規模内容を有し、教員組織、教員数その他が学部として適当であることはいうまでもなく（大学設置基準第3条）、総合情報学を教育研究するに必要な組織を備えている。（大学設置基準第4条）

次に、総合情報学部の具体的な特色について述べる。総合情報学部では、情報科学分野の能力を基盤としてメディア、環境や経営、人間心理など、個人・組織・社会の各レベルにおいて、情報とその相互作用による価値向上をテーマとした総合的な情報学分野の教育研究を進めてゆく。このため、総合情報学部には総合情報学科の一学科を設置する。

これらの知見を融合した新たな学問の体系化と高等教育内容の構築を進め、これを広く教授していくことを目指す。さらに、情報技術をこれまでの製造業の場だけでなく、今や国内総生産の7割を占めるサービス産業の場へと幅広く応用研究を進め、わが国の産業構造と生産性の向上を先導することが本学科の大きな特色と言える。

これらの特色を基にして、総合情報学部総合情報学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」でいうところの「世界的研究・教育拠点」および「高度専門職業人養成」の役割・機能を担うべく教育研究を行っていくものとする。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

総合情報学とは、情報と、情報の相互作用によって価値向上を進める在り方を思考、設計、具現化する学問である。情報の相互作用は、人間個人、集団としての組織、さらに広がった社会や環境レベルまで幅広い場で展開されるものである。また、情報の相互作用の内容やインタフェースについても、デジタルのみならずアナログ、また表現メディアとしても言語や文字のほか、芸術と呼ばれる領域までを含んでいる。

本学科では、情報通信技術の習熟を基本として、情報の収集、編集分析、表現などの一連のプロセスに関する見方、考え方と、実践技術に関する学芸の習得を目的とする教育課程として構築している。

以上のことから、学部・学科名称は、本学科の教育研究上の目的と特色を最も的確に表現する「総合情報学部」（英訳名称：Faculty of Information Sciences and Arts）、「総合情報学科」（英訳名称：Department of Information Sciences and Arts）とし、学位名称を学士（情報学）（英訳名称：Bachelor of Information Sciences and Arts）とすることとした。

このように総合情報学部、及び総合情報学科の名称は大学として適当であるとともに、学部の教育研究上の目的にふさわしいものであり（大学設置基準第40条の3）、また、授与する学位には、適切な専攻分野の名称を付記している（学位規則第10条）。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

総合情報学部の教育課程は、学術の中心としての大学を意識し、「広く知識を受けるとともに、深く専門の学芸を教育研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし（学校教育法第 83 条）教育課程については、学部共通の「一般教養科目」、「専門科目」の 2 つに体系化し、「専攻に係わる専門の学芸を教授すると共に、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことができるように編成している（大学設置基準第 19 条）。

一般教養科目、専門科目ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目を設け、各年次に配当している（大学設置基準第 20 条）。また、各授業科目の単位数、一年間の授業期間、各授業科目の授業期間なども大学設置基準に従って定めている。

以下に、教育課程の区分ごとの説明を記す。

（a）一般教養科目

一般教養科目は、自然、人文、社会、総合、ウェルネス、文化間コミュニケーション、英語特別教育科目、日本語科目、人間形成分野からなる。総合情報学教育の補完としてだけでなく、哲学を基盤にもつ本学の教養教育の伝統に基づき、市民としてもつべき共通の知識、共通の価値観を涵養するように配慮している。幅広い科目を設置し、「第一級の情報の使い手」として様々な社会事象に対し自ら価値判断ができ、複眼的なアプローチをもって幅広く対応できる知性の育成を目指すべく、初年度に偏ることなく 1 年次から 4 年次まで、学生の希望に応じて学ぶことができるように配置している。

自然

自然分野は、「物理学の基礎」、「生物学の基礎」、「環境科学」など、ものごとの本質を見極める科学の基礎科目を中心に学修することで、基礎的な科学の知識を養成するための科目群である。

人文

人文分野は「哲学」、「文学」、「倫理学」等を中心に学修することで、基本的な「ものの見方・考え方」を修得させ、人間に対する基礎的な洞察力を養成するための科目群である。

社会

社会分野は、「経済学の基礎」、「法学の基礎」、「社会学の基礎」等を中心に学修することで、組織や社会に関する基礎的な知識を養成するための科目群である。

総合

総合分野は、教養教育課程の科目を横断する領域や、区分に当てはまらない学際領域的な内容など、各年度に本学部の教員が創意工夫によって企画開講する科目群である。

ウェルネス

ウェルネス分野は、身体運動が個人の精神や人間関係に与える影響を理解させ、新たな身体活動のあり方や人間関係を創造していく力を養うための科目群である。

文化間コミュニケーション分野

文化間コミュニケーション分野は、英語・仏語・独語・中国語の 4 つの外国語を通じて、

民族の歴史や風土等が育む文化の多様性を学ぶための科目群である。

英語特別教育科目

英語特別教育科目分野は、日本人の学生が、本学が教育研究で連携する外国の大学等に留学する際に、その準備において必要な TOEFL 受験を念頭に置いた科目群である。

日本語科目

日本語科目分野は、本学が教育研究で連携する外国の大学等から外国人学生が本学部に入學した際に、日本語の学修を進めるための科目群である。

人間形成分野

人間形成分野は、総合情報学部の学生の「就職観」を涵養するために、基礎職業教育とインターンシップの位置づけとなる科目群である。

(b) 専門科目

専門科目は、総合情報学の多様な専門分野を網羅する。履修区分として必修、選択必修、選択に履修条件を区分しており、うち選択科目については共通科目と、4つの科目群（以下「系」と呼ぶ）で編成している。

必修科目は1～4年次までに、選択必修科目は3・4年次に、選択科目のうち共通科目は1～4年次に、4つの系（情報科学系、メディア文化系、環境情報系、心理情報系）については2年次以降に配置されている。

1年次は情報を取り扱う基礎的な作法(リテラシー)を学ぶ期間と位置づけ、必修科目を中心に学修する。2・3年次には一般教養科目の履修も進めながら、自らのキャリアプランを基に専門的に学ぼうとする「系」の科目を中心に選択し、知識と技術能力を深めてゆく。4年次では、修得した知識と技術で情報を総合的に活かすスキルに習熟させるものとし、その達成度を測ることになる。最終的には、「フィロソフィーを持った第一級の情報の使い手」の育成が出来るように教育課程を構成している。

以下に、履修条件の区分ごとの説明を記す。

必修科目

総合情報学のリテラシーとして、「総合情報学概論」、「プログラミング入門」を1年次に配置している。ここでは講義を中心として、学部教育の根幹である総合情報学の基本概念と、情報を取り扱う基本的なプログラミング技術を理解させる。

1・2年次では、本学部のもうひとつの柱である英語教育を専門科目の位置付けで必修としている。「Integrated Practical English」などがそれにあたる。これは、英語を教養としての語学ではなく、コミュニケーションのためのツールとして捉えて専門科目とするものである。その教育内容も、社会人英語の資格とも言うべき、TOEICに対応した内容であり、実用性と共に社会からの要請に応えるものとしている。

実験・実習を中心とする科目としては、1年次から4年次までの8つのすべてのセメスタに、必修科目である「総合情報プラクティス」が配置されている。これら「総合

情報プラクティス」を中心に、問題を発見して解決する能力や姿勢を実践面から涵養する。

選択必修科目

コミュニケーションツールとしての英語を、選択必修科目として3・4年次にも用意している。これは、コミュニケーションツールとしての英語を重視する本学部の特色を表しているとともに、これまで英語科目の履修が初学年に偏っていたため、卒業時にはその能力が薄れてしまっていたことに配慮したものである。

選択科目

< 共通科目 >

1年次において、総合情報学の基礎のひとつである数学を中心に、共通科目を配置している。そのほか、総合情報学の最先端を初学年で教授する「総合情報学ショーケース」や、心理学や環境学に関する基礎知識を養うための科目を配置している。これらの共通科目は選択科目として設定している。

また、4年次には「卒業論文 ・ 」 「卒業制作 ・ 」 を実験・実習を中心とする選択科目として配置しており、学生の履修を奨励するものとする。

< 情報科学系 >

情報科学系ではコンピュータサイエンスの学習がテーマで、「プログラミング技法 ・ 」 「ソフトウェア工学 ・ 」 「アルゴリズムの基礎」 「オペレーティングシステム」 「コンピュータアーキテクチャ」 「CGの理論と実践」 「パターン認識」 などの科目を配置している。

< メディア文化系 >

メディア文化系では情報コンテンツの設計とメディアデザインの学習がテーマで、「芸術論」 「感性学」 「コンテンツ作成のためのCG」 「メディア文化論」 「ヒューマンインタフェース」 「ネットワーク社会論」 などの科目を配置している。

< 環境情報系 >

環境情報系では企業活動をはじめ環境関連知識に深く関わる経済・社会活動の学習がテーマで、「環境コミュニケーション論」 「環境マネジメント論」 「環境イノベーション論」 「サービスサイエンス」 「ビジネスアーキテクチャ」 「企業マネジメント情報論」 「環境会計学」 「社会マーケティング論」 などの科目を配置している。

< 心理情報系 >

心理情報系では情報に対する人間の受容性の学習がテーマで、「産業・組織心理学」 「認知心理学」 「実験心理学」 「社会調査法」 「人間環境デザイン心理学」 「コミュニケーション心理学」 「異文化コミュニケーション」 などの科目を配置している。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

総合情報学部の教員組織の編成にあたっては、学部の「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く」ことを原則にしている（大学設置基準第7条第1項）。

総合情報学部では、工学部の既存の学科から異動してくる教員 25 名のほか、新たに 9 名の教員を 21 年度から 22 年度にかけて採用し、最終的には学部全体で 34 名の教員を配置する予定である。学部の専門教員の半数以上を既存の工学部（平成 21 年度から理工学部に変更）から異動させることにより、新設の学部が陥りがちな「教育方法の未熟さ」を防いでいる。

教員編成においては、特に「教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮」し（大学設置基準第 7 条第 3 項）30 代、40 代、50 代、60 代の各年代にバランスよく配置し、これを維持していく方針である。さらに「学校法人東洋大学教職員定年規程」（資料 1 参照）では、専任教員の定年は 65 歳と定めており、高齢に偏ることのないようにしている。総合情報学部の専任教員数が、大学設置基準第 13 条で定める数以上であることはいうまでもない。

また、総合情報学部の「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第 7 条第 2 項）学部長を置き、学部内に各種委員会等を設置することになっている。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

<教育方法>

新設する総合情報学部では、卒業要件としては 124 単位以上を修得することとしている（大学設置基準第 32 条）。また、一般教養科目、専門科目の 2 区分に、それぞれの必要単位数を設けることとしている。具体的には、一般教養科目が 16 単位以上、専門科目が 92 単位以上、両方で 124 単位以上修得することとしている。

授業科目は講義科目、演習科目、実習(実験、実技)科目を組み合わせ（同 25 条）、より教育効果が上がるように教育課程を編成している。特に総合情報学部の場合は「総合情報プラクティス ～ 」といった実習科目が重要な位置を占めるので、そのための設備を整備し、教育効果を高める。

各授業の学生数は、教育効果を十分にあげられるように講義科目の場合は 50～260 名を、演習科目は 10～50 名を目安にしている。実習科目については、施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して対応する。（同 24 条）

また、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学、において履修した授業科目について修得した単位を、六十単位を超えない範囲で授業科目の履修により修得したものとみなしている（東洋大学学則第 43 条の 3）。これには、大学として実施している交換留学制度や海外語学セミナーの単位認定なども含まれる。（同 28 条～30 条）

履修単位数については、一年を春学期、秋学期の 2 セメスタに分け、無理なく学修出来るように、各セメスタの履修上限を「24 単位」と定めている。（同 27 条の 2）

<履修指導>

1 年次は、一般教養科目と専門科目の共通科目をバランスよく履修することにより、幅

広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養すると共に、総合情報学の広範さについて知識を深めることを目的とした履修指導を行う。専門科目としては、学科教育の基礎となる講義科目「総合情報学概論」「入門プログラミング」及び基礎演習となる「総合情報プラクティス」を中心として、履修させる。

2年次、3年次においては、専門科目へと履修の重点が移る。より高度な知識と技術の習得を目指した専門教育・職業人養成を行うために、共通、情報科学系、メディア文化系、環境情報系、心理情報系の科目群から、学生の興味や希望進路に沿って履修を進めさせてゆく。この時期においては、必修の演習「総合情報プラクティス」の内容も基礎から応用に入ってゆく。

4年次においては、学修の集大成として学生は各教員が主宰する研究室に属する。各研究室で担当教員のもと、必修の演習「総合情報プラクティス」を受講するほか、「卒業研究」又は「卒業制作」のいずれかの選択履修も奨励される。これによりさらに高いレベルの知識と技術の習得と、実践活動による固定化を目指してゆく。

以下に幾つかの履修モデルを記載する。(資料2参照)

具体的な履修指導については、全学的に従来から行ってきた新入生教育時における履修ガイダンス、キャリアガイダンス、資格ガイダンスを本学部においても実施し、学生が自らの特性を理解し、各自の目標を設定し、学修に邁進することができるよう、随時指導及び支援を行う。また、各教員はオフィスアワーを設定し、その時間を公表している。

また、平成16年からキャンパス内に学習支援室を開設し、カリキュラムの進捗についてくることのできない学生が出ないように、「数学」を中心とした基礎科目の学習支援と、英語学習支援を行っている。学習支援室では、学習指導の他、履修を中心とした各種相談にも対応している。

さらに、パソコンの基本的操作などの質問に対応するパソコン相談センターを整備する予定である。

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

総合情報学部が設置される川越キャンパスは、校地面積約29万㎡を有し、東京都心から40km程離れた郊外型キャンパスである。

昭和36年のキャンパス開設以来、これまでは工学部(収容定員3,840名)の教育に使用してきたが、現在進めている学部再編により、平成21年度から工学部を名称変更する理工学部(収容定員2,800名)と、新たに設置する総合情報学部(収容定員1,040名)とで利用することになる。学部再編にあたり、収容定員は変更していないので、キャンパスの広さとしては、これまでと変わらずに十分な面積が確保される。

また、屋外施設として陸上トラック、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニス場等が整備されている。

(b) 校舎等施設の整備計画

これまで川越キャンパスでは、工学部のために教室、図書館、研究室、会議室、事務室、医務室、学生自習室、学生控室、情報処理施設、語学学習施設といった校舎や、体育館、それ以外のスポーツ施設など大学設置基準に定める校舎等の施設を十分に用意してきた。例えば、校舎等は、平成 14～15 年にかけて、主に教室や研究室からなる 1 号館、2 号館を竣工させ、講義科目を行う建物のリニューアルを済ませている。また、教員の研究室は、1 教員に 1 室を用意することはもちろんのこと、教員同士の打ち合わせや、学生と教員との交流のためのゼミ室のスペースも確保している。

長い歴史の中で整備されたこれらの施設設備は、21 年度以降、工学部（平成 21 年度から「理工学部」に名称変更）と総合情報学部とで使っていくことになるが、新たに設置する総合情報学部の教育内容のうち、これまでの工学部の教育になかった分野については、新たに施設・設備を整備する必要がある。

具体的には新棟を建設し、その中に PC 演習室を新設するほか、シアター教室やスタジオといったメディア文化系の教育の為のスペース、行動観察室やカウンセリング実習室といった心理情報系の教育の為のスペース、環境モニタリングコーナーといった環境情報系の教育の為のスペースを確保し、コアとなる教育科目に関連させた設備を整備する予定である。さらに、総合情報学科は入学定員 260 名の比較的大規模な学科であり、学部を一括した講義やガイダンスのために、300 名規模の教室を新たに整備する予定である。

これら校舎等の施設は総合情報学部の教育課程を展開するに十分である。（授業時間割は資料 3 参照）

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

総合情報学部が開設される川越キャンパスの図書館（東洋大学図書館川越図書館）は 2,896 m²の広さに閲覧席 447 席を有し、十分な座席数が確保されている。

蔵書数は約 17 万冊（平成 20 年 3 月 31 日現在）を超えている。これまでの経緯から工学系の図書が多いが、総合情報学部の設置に伴い関連した図書等の整備を予定している。

また、文学部をはじめとした文科系 5 学部（平成 21 年度からは 6 学部）を擁する白山キャンパスや、ライフデザイン学部を擁する朝霞キャンパス、生命科学部を擁する板倉キャンパスの図書等についても、各キャンパス間を毎日巡回しているシャトル便によって、希望した翌日に簡単に取り寄せることが可能である（全キャンパス合計で蔵書数は 130 万冊を超えている）。このため、川越キャンパスにいながら他キャンパスの図書館所蔵図書を有効に利用することが出来る。学際的な領域をも扱う総合情報学部にとって、他キャンパスの図書館の所蔵図書は、教育・研究上、非常に有効な資源である。

これらの図書および雑誌等の資料は、本学の所蔵検索システム（OPAC）で学内はもとより学外からも検索することが可能であるとともに他キャンパス図書館資料の取り寄せ申込

および予約も可能である。さらに国立情報学研究所（NII）が提供している NACSIS Webcat により総合目録データベースの情報検索が可能であり、相互貸借システムである NACSIS ILL により他大学図書館および他機関の文献複写や図書資料の取寄せも実施している。

また、埼玉県内の大学・短期大学の図書館間の相互協力促進を目的とした埼玉県大学・短期大学図書館協議会に加盟し、図書館相互利用の向上に努めている。

さらに利用者に最新の情報を速やかに提供するため、毎年、データベース・電子ジャーナルの充実・整備を図っている。これらのデータベース・電子ジャーナルはホームページを通して公開しており図書館内はもちろん、各教員の研究室、PC 実習室からも利用できる。

以上、川越キャンパスにおける現在までの工学部の実績と、総合情報学部を設置するに当たって新たに整備を進める計画の状況は、大学設置基準第 34～38 条を十分に満たすものである。

ク 入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。（学校教育法第 56 条）

また、入学者の選抜では、公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする。（大学設置基準第 2 条の 2）

18 歳人口が減少を続け、大学が受験生を選抜する時代から、受験生が大学を選抜する時代へ変化してきている。そのなかで、総合情報学部の教育理念「ユビキタス時代の第一級の情報の使い手の育成」を標榜し、情報科学系、メディア文化系、環境情報系、心理情報系までの幅広い領域を総合的に教育・研究している学部・学科は未だ少なく、総合情報学を学修した卒業生に対する社会的ニーズは、非常に高いものと予測される。

そういった質の高い卒業生を送り出すためには、入学者の選抜においても、学業成績はもちろんのこと、学習意欲と目的意識が明確な学生を確保しなければならない。また、総合情報学部の学問領域を修めるためには、単なる学力だけでなく、モラルや人間性等も求められるためバランスの取れた学生を求めたい。

そのためには、学力試験を含め多様な選抜方法が必要とされ、以下のような複数の選抜方法を採用する予定である。

本学独自の入学試験（文系入試・理系入試併用）

大学入試センター試験を利用した入学試験（文系入試・理系入試併用）

推薦入学試験（学校推薦、指定校推薦など）

推薦入学試験（附属高等学校）

の本学独自の入学試験においては、原則として 3 つの教科においてバランスよく得点できる人材を求めるとする。また、の大学入試センター試験を利用した入学試験については、受験生の負担を軽減することで、総合情報学の考え方に共鳴する受験生を全国

から集めることを目的として実施する。 、 については、文系入試と理系入試を併用し、総合情報学部に関心のある受験生に、広く門戸を開放している。 、 の推薦入学試験については、総合情報学部の特段の興味を有し、かつ素養がある者について、面接試験や口頭試問等を行って選抜する方法である。

総合情報学部が目指す教育内容、学問領域は全国的にも新しい取り組みであり、学部の教育内容をいかに認知してもらうかが課題になる。そこで、より広い地域へ情報を発信するため、また、優れた資質を持った学生を全国に求めるべく、本学のキャンパスも含め全国で20以上の試験会場を設け、選抜試験を行う予定である。

なお、入学者選抜の前段階として、新しい学問領域である「総合情報学」を理解してもらうために、オープンキャンパスや“学び”LIVE（授業体験）など、本学で実施しているイベントを通して教育研究の理念や内容などの情報を発信していく。この際、学部の教育研究内容を正しく理解してもらうため、簡単な実習やポスター発表による研究紹介などを行い、本学部で学ぶことを志願者に正確に伝えるようにする。

ケ 取得可能な資格

(a) 取得可能な資格の一覧表

総合情報学科で取得できる資格としては「高等学校教諭1種免許状（情報）」を予定している。

(b) 実習の具体的計画

教育職員免許状については、既存の工学部の複数の学科で同じ免許状が取得できるように認可を受けており、教育実習先についても同様の施設を活用する予定である。

コ 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合は、その具体的計画

(a) 企業実習

在学中に企業において実習を行う「インターンシップ」が、教育上大きな効果があることを認識し、総合情報学部においても、情報通信技術を活用する基本的なスキルを身につけ、総合情報学の深い習得に生かすためには、学外の企業や研究所において、情報の価値を高める実践活動の一端を習得することが有効である。

総合情報学部では「学外実習Ⅰ」、「学外実習Ⅱ」という科目を選択科目として3・4年次に配置している。この科目を履修した学生は、企業等の活動現場で、さまざまな年令や職務の人々と仕事を共にし、大学内の講義や演習では得ることがむずかしい能力を磨くことになる。現場における専門知識の習得や、生の技術的また対人的な体験をすることによって、総合情報学の応用にかかわる実務的な知識・技術を体得することになる。これによって経験を積み、能動的な姿勢が育つことも期待している。

基本的には授業期間外の休暇期間において、場合により授業期間内に企業実習を計画している。派遣先は情報産業をはじめとした企業であり、本学の同窓会組織を幅広く活用す

る計画である。活動において有効な成果を挙げた者については、派遣先との合議結果を基にして、単位認定を行う計画である。

(b) 海外語学研修

海外語学研修はモンタナ大学、オレゴン大学、ダブリンシティ大学、大連外国語大学等、本学の海外教育提携大学を中心に大学全体で実施している。海外語学研修も休暇期間の実施を基本としている。研修において有効な成果を挙げた者については、英語圏であれば「英語と文化」、中国語圏であれば「中国語と文化」の単位として認定する計画である。

サ 管理運営

新たに設置される総合情報学部には、総合情報学部の関係事項を審議するために総合学部教授会が設置される。総合情報学部教授会は、総合情報学部の専任である教授、准教授、講師を構成員とし、原則月 1 回の定例教授会のほか、必要に応じ臨時教授会を開催する予定である。

学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには構成員の 3 分の 2 以上の出席が必要であり、また決議は出席会員の過半数の同意によって成立する。

総合情報学部教授会の主な議題は、学部長や学科主任、名誉教授の推薦に関する事項、学部所属の専任教員(教授、准教授、講師、助手)の選考並びに進退に関する事項、学生の入学、退学、転学、休学、及び卒業に関する事項、学生の試験に関する事項、学則・規則等の制定・改廃に関する事項などとなる。

シ 自己点検・評価

本学では、平成 7 年度に「自己点検・評価基本構想委員会」のもと、全学的な自己点検・評価活動を実施し、その結果については「東洋大学の現状と課題」として刊行し広く公表した。また、その自己点検・評価活動の結果を持って大学基準協会の第 1 回相互評価を受け、認定評価を受けることができた。

その後、「自己点検・評価基本構想委員会」は「東洋大学自己点検・評価委員会」に改編され、各学部・研究科にも自己点検・評価委員会が設置された。これにより、自己点検・評価活動も各学部等の単位で日常的に行われるようになり、学生による授業評価(学生授業アンケート)も全学部で行われるなど定着化が進んできている。

このような自己点検・評価活動を踏まえ、平成 13 年度末から大学基準協会の相互評価を再度受けることを視野に入れながら全学的な自己点検・評価活動に取り組み、その結果を平成 15 年度末に取りまとめて開示を行った。

平成 14 年 11 月に学校教育法が改正されたのを受け、平成 19 年度に、東洋大学全体として、財団法人大学基準協会による認証評価を受けたが、評価を受ける過程の中で、「大学評価統括本部」を設置し、自己点検・評価を推し進めた。大学基準協会の評価結果は 20 年 3 月に公表され、「大学基準に適合していると認定する」の評価を得ている。

新たに設置する総合情報学部においても、これまでの本学の実績を生かし、学内外の良い実践例を参考として、自己点検・評価活動を組織的に進める計画である。

ス 情報の提供

本学では、教育活動の情報提供については、ステークホルダーにより方法、媒体に工夫を加えている。

例えば、在学生に対しては、履修要覧・講義要項等の冊子媒体を配布し、学部・学科の教育目標やカリキュラム、科目の内容（シラバス）、教員や研究室の活動内容などを伝えるほか、インターネットを利用した本学独自の「東洋大学 Web 情報システム」でも教員プロフィールやシラバス等の情報を提供している。また、特徴ある教育プログラムやゼミナールについては、「東洋大学報」に掲載し情報を提供している。

父母等に対しては、年 5 回発行される上記の「東洋大学報」を毎号発送したり、本学のホームページを通じてシラバス（講義内容）、カリキュラム、教員プロフィール等の情報を提供したりしている。さらに、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科主任等が教育活動を中心に大学の活動を報告している。

受験生に対しては、ホームページのほか、大学案内（「東洋大学 GUIDE BOOK」）等を配布し、カリキュラム、代表的な科目の内容、教員、研究室、卒業後の進路等について情報を提供している。

その他、広く一般に対しては、本学のホームページを通じて大学の教育理念・目的、カリキュラム、科目の内容（シラバス）、教員プロフィール等を公開し、また、上記「東洋大学報」の PDF も掲載している。

以上の事項は、開設後の総合情報学部でも同様であるが、学部の開設前にも積極的に情報提供するため、総合情報学部の教育活動について「東洋大学報」において特集を組み、学部の教育内容の告知を図っている。また、平成 21 年 4 月に新たに設置する学部・学科等についてまとめた「東洋大学 GUIDE BOOK」を作成し、志願者に配布し学部・学科の教育について理解を求めていく予定である。さらに、総合情報学部は何を学ぶ学部か、そもそも総合情報学とはいかなる学問かということを広く世に周知するため、設置前にシンポジウムを開催するほか、テキストとして「総合情報学入門」を早期に出版し、学部全体の情報提供の中心とする計画である。

総合情報学部に限らず、本学の教員の研究活動においては、学会等、学外の場を基本に、広く研究成果を発表することにより、社会に貢献することを目的としている。さらに総合情報学部については、これらの研究活動を通じ、総合情報学の発展に貢献していきたいと考えている。また、学会発表にまで至らないような萌芽的研究については、学部の紀要等に発表の機会を確保する予定である。

教員の研究成果については、直近では財団法人大学基準協会による認証評価を受ける際に、本学の自己点検・評価の基礎データとして集約した。この基礎データをもとに「東洋

大学研究者情報データベース」を構築したが、このデータベースを有効に活用することを支援するとともに、広く公開していく予定である。

このほか、定員、学生数、教職員数、財務状況等、大学や学校法人の基本的な情報については、事業報告書やデータブック等にまとめており、同じものをホームページにおいても公開している。自己点検評価報告書及び大学評価（認証評価）結果についても同様である。さらに、本設置届出書についても、設置届け出後、その抜粋をホームページにおいて公開する予定である。

セ 教員の資質の維持向上の方策

本学では、東洋大学学則第 3 条の 3 に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と定め（大学設置基準第 25 条の 3）教育活動の継続的な改善の推進と支援を目的とした全学的組織「東洋大学 FD 委員会」を設置している。

FD 委員会は委員会全体での活動のほかに、4 つの部会（研修部会、大学院部会、授業改善対策部会、教員表彰部会）を設け、部会単位でも活動している。

研修部会は新任教員を中心に FD についての啓蒙活動を行うとともに、東洋大学の教員として最低限理解し身に付けておかなければいけない知識や心構えなどの浸透を図る。大学院部会は、大学院独特の教育手法等についての FD 活動を進め、授業改善対策部会では、学部・大学院を問わず教育方法の工夫や改善を目指す。教員表彰部会は優れた教育を実践した教員に対し表彰を行うことで、大学全体の FD への積極的取り組みを喚起する。

東洋大学 FD 委員会を中心とした全学的な FD 活動のベースになっているのは各学部・研究科での活動である。各学部・研究科は FD 委員会を設けたり、また FD 活動と極めて密接な関係にある自己点検・評価委員会と連携したりしながら FD 活動を進めており、その活動の発表会が平成 19 年 12 月に行われた。

これらの活動は、新たに設置される総合情報学部においても同様で、学部が掲げる理念と教育目標を実現するため、カリキュラムや開講する授業の設計、実施、成績評価の適切性について、教員が職員と協働し、学生の参画も得つつ、組織的な研究と研修を推進する取組を進める。具体的な取組としては、授業のシラバス、授業の実施、授業の成績評価について、自己点検、教員間総合評価、学生評価、外部評価などによる結果を適度に組み合わせるほか、学内外の FD の良い事例について学部として研修会等を実施する。また、最先端情報システム技術を適用した学内情報システム開発・構築等に参画し、実践的なソフトウェア工学教育に取り入れる。さらに、これら取組の妥当性と有効性を継続的に検証しながら、さらなる改善に活かしてゆくサイクルを進めてゆくものとする。